

独立行政法人福祉医療機構
2023 年度社会福祉振興助成事業実践報告書

共生社会を創る高齢者・障害者・
外国人等のダイバーシティ活動



一般社団法人健康生きがいサポート互助会

2024年3月

目 次

はじめに	1
【総括・評価】	
令和5年度健康生きがいサポート互助会活動報告	2
健康生きがいサポート互助会 代表理事 松永 正昭 氏	
「垣根」をなくして目指すハッピータウン福井	4
特定社会保険労務士／元読売新聞記者 安田 武晴 氏	
みんな …… いるで、…… みんな…… してるで	6
— 学び・創作・やりがい・いっしょ —	
大谷 源一 氏	
【活動記録】	
1 きらりアート活動	1 2
(1) きらりアート部サテライト教室	1 2
(2) きらりアート鑑賞研修会	1 5
(3) 「まるまるつながるアートてん まる」 ～出展者の思い～	2 2
(4) きらりアート交流展 ～きらりアート展 in うみんぴあ大飯～	2 6
2 人命救助相談活動	
東尋坊で遭遇した自死企画者救済対応状況	2 8
NPO法人心に響く文集・編集局	
3 セーフティスマイル多文化共生活動	3 8
(1) 住民に働きかける「SSサロン」(高齢者交流生きがい活動)	3 8
(2) 子どもの自立を支える「子ども学習講座」(子どもの居場所)	4 2
(3) 多文化共生活動(住民参加日本語、文化、交流研修会)	4 7
4 連携団体の取組	
(1) 地域福祉(共生社会)推進活動への取組	
社会福祉法人北日野こもれび会 理事長 田辺義明 氏	5 5
(2) つながるベース シーティングクリニック	
医療法人社団法人オレンジの取組	5 8
(3) 移住農家 小林農園	
(4) 地域福祉共同活動 共同生活援助施設整備計画について	6 4
NPO法人ねこやなぎ倶楽部	6 6

はじめに

健康生きがいサポート互助会 代表理事補佐

WAM助成事業運営責任者 松宮 高宏

本報告書は令和元年度から継続している取り組みの令和5年度実績報告です。

令和元年度から令和3年度の3年間は、「誰もが元気で働き、生きがいやりがいを持ち暮らす共生社会づくり」をテーマにWAM助成を受けて事業に取り組みました。

その事業により得られた成果をもとに関係各位からの要望を受けて令和4年度は、1年間自己財源で取り組みを継続しました。

令和5年度は、これまでの4年間の事業成果を受けて、新たに「共生社会を創る高齢者・障害者・外国人等のダイバーシティ活動」をテーマにWAM助成を受け事業に取り組んでいます。

活動は、高齢者と障害者・疾病者、技能実習生等の在留外国人等の孤立や社会不適応、疾病等を防止し、子どもの放課後の居場所づくり、健康と生きがい・やりがい、豊かな体験、交流と理解を進める事業を柱に共生社会創造を志向する各種団体と連携して進めてきました。

①アートの力で高齢者・子ども・障害者・疾病者等の潜在能力の開発し、生きがいと潤いを与える「きらりアート」活動。

②悩みを抱える自死企画者等の救済支援を目的に行う「人命救助相談支援」活動。

③地域住民、子ども・高齢者と障害者・疾病者、技能実習生等の在留外国人等の暮らしの安寧を目的に行う「セーフティスマイル多文化共生」活動。

本報告書では、事業活動と外部評価、連携団体の取組を記述し、今後の活動を展望します。

令和5年度 健康生きがいサポート互助会（略称：互助会）活動報告

代表理事 松 永 正 昭

知的障碍児者親の会が運営する社会福祉法人の「福祉工場、授産、雇用定着、農業後継者育成、商事部、通勤寮、生活寮、日中活動、能力開発、医療共済」の分社化で、引き受け手のない旧雇用促進住宅団地 139 戸の活性化を目的に新設した互助会が住民のハッピーライフを目標に、子ども・障碍者・高齢者・外国籍住民の共生社会活動を展開して7年。人望ある指導者の下、子ども学習講座は学力向上と家庭生活の安定。障碍者への就業機会提供は潜在能力が開花。高齢者サロンは、活動の成果物を社会に還元。多文化共生活動は、地域の産業を支える外国籍労働者への定着・定住活動が住民と企業に高く評価され、更なる発展を熱望されるに至っている。

その活動財源は団地の住民が納付する賃料と互助会が引き継いだ医療共済事業積立金の戻入を自己財源にWAM助成金等で賄うため有識者に活動事業の評価をお願いしている。令和5年度は少子高齢化と若者流出で寂れる地方社会を見据えた「医療・介護・福祉」連携ハッピータウン構想を企画。特定社会保険労務士事務所の安田武晴様に評価を依頼した理由の一つ目は、安田様が元読売新聞記者で厚生労働省記者クラブに勤務されていた20年前、私がフォーラムで「福祉は、21世紀の基幹産業。サービス業。障碍者も自助努力。働いて社会保険に加入。納税者に」の発言に、福祉関係者から「寝言をほざく詐欺師」と揶揄された折、安田様が福井に足を運ばれ、サービス業の福祉。重度の障碍者を職場の戦力に育てる工夫。所得を保障するための職種開拓と資金調達にも耳を傾けて頂いたことや昨今新聞紙上に掲載される福祉事業所の不正や人格軽視・人権無視の行為にも現地に出向き、具に調べ、適切な予防対策の必要性を警鐘されたことです。依頼理由の二つ目は、御令室が青森県出身で御母堂様の遠距離見守りと折に触れ帰省されての介護を実践中で、自分事としての評価を期待したこと。三つめの理由は、社会保険労務士の立場から大都会の「医療・介護・福祉」に明るいことで、従来の評価委員と過去・現在の知見を参考に未来志向の提言と指導を期待したことです。

1月25日最初の案内先は、医療法人オレンジグループ「代表 紅谷浩之医師」が運営する複合施設「つながるベース」。当日の紅谷代表様は年始に発生した能登半島地震の被災地で被災者を救護。避難所での生活に支障のある要介護者をグループ法人の施設に受け入れるなどオレンジグループの理念『あなたの“生きる”に寄り添う』の実践中で不在でしたが住民の健康と安心をサポートする「医療・介護・福祉」の仕組みと仕掛けを見聞して頂いた。

二番目の案内先は、坂井市の東尋坊で2004年4月から自殺防止活動に取り組むNPO法人心に響く文集・編集局 代表 茂 幸雄様は東尋坊に相談所と茶屋の「命の防波堤」を設け、これまでに818人の自死企図者を救ってきた福井県警の元警視さんです。

三番目の案内先は、越前市の障害福祉サービス「ぴーぷるファン」事業所。利用者の月額平均工賃が就労継続支援「B型」事業の在籍者は約8万円。生活介護の利用者も約5万円。利用者の大半が中重度の知的障害者だが田辺義明理事長様は個に合わせた仕事の提供と感情の育成に力を注ぎ、生産性向上と取引先との信頼関係を強固にしている。3年前に開講した「きらりアート部」ぴーぷるファン教室の受講生もののびのびと描いた絵が家族に認められると活動意欲が高まり、生産活動での生産性も15%向上した…などの成果を収めている。

4番目は、かみなかコーポに計画の「医療・介護・福祉連携」ハッピータウン構想の助走でもある「見守り・看取り用」居室や町外へ流出した若年労働力を補う外国人技能実習生への快適生活支援活動とNP0法人若狭美&Bネット「ものづくり美学舎」理事長 長谷 光城様運営の熊川宿若狭美術館に案内。長谷先生はご不在でしたが本年2月に東京銀座で開催された若手芸術家育成事業の作品展にお誘いした方が長谷さんは「若狭の宝・福井の宝・日本の宝」だと称えられた。その長谷先生の「真の共生社会づくり」の集大成が今年1月3～14日に福井県立美術館で開催された「〇〇つながるアートてん〇」展に現れています。そして、多様な課題を抱える人たちをプロ級作家へと導かれる姿からは慈愛溢れる後光を感じます。

本報告書では、活動内容と成果を中心に纏めたが、活動の輪を広げ、躍進に大きな役割を果たされた連携団体独自の活動も紹介し、令和6年度の互助会活動は、新体制の下、地域に寄り添い、介護難民が囁かれる中、支える人の仕組みを考え、課題を抱える人や心を病む人が増え続ける現象を鑑み、障害の発生予防と軽減解消にも取り組みたいと考えています。

先ずは、子供と課題を抱える人を対象に「療育・智育・教育・徳育・体育・食育」講座をかみなかコーポ内で始めますがこの『人の質の』向上学習は、教材費と参加費を頂きます。

なお、かみなかコーポの敷地内にグループホームの設置と障害児放課後デイサービス事業と障害者日中一時支援事業の開設要求もありますので、ご期待に応えるよう検討します。

きらりアート部サテライトアトリエ教室も働き方改革の導入で、受講生の方もシフト勤務が増えたので、春江教室は、第一日曜日は休講し、月曜から土曜日の9時から15時半までの間で自習作画を可能とします。

終わりに、今年度開催したAD研修会はオンライン参加を含め81回、参加者は延36人。評価会議の開催もオンライン参加を含め34回、有識者の参加は17人です。

互助会は、2026年度まで公益社会福祉活動事業を継続しますので、旧倍のご支援と協力をお願い申し上げます。

「垣根」をなくして目指すハッピータウン福井

特定社会保険労務士／元読売新聞記者 安田武晴
(社会保険労務士事務所オフィスオメガ代表)

福井県の一般社団法人「健康生きがいサポート互助会」が進める「ハッピータウン構想」は、あらゆる「垣根」を取り払って、目の前にある困りごと（ニーズ）に応える取り組みである。サポートを受ける人たちも自ら率先して動き、働いて暮らす。そして、支える側と支えられる側の垣根も取り払われていく。その成果が評価され、WAMなどが後押しする形で地歩を固めつつある。

能登半島地震後の2024年1月25～26日、同互助会の代表理事・松永正昭さんのお誘いで、福井市、坂井市、越前市、若狭町を訪ねた。私は新聞記者、社会保険労務士として30年近く社会保障とかかわっている。新聞記者時代に何度も福井県取材し、松永さんや仲間の皆さんとも約20年、お付き合いさせていただいている。

また、私自身、親の健康状態が気になる年齢となった。私も妻もすでに父は他界し、母は80代半ばだ。どちらも安否確認や見守りが欠かせない。私の母は都内在住だが、妻の母は青森県むつ市に住んでおり、妻は年に数回、半日かけてむつ市へ行く。松永さんたちの取り組みは、東京で生まれ、育ち、暮らす私も、大いに関心をそそられる。

社会保障の究極の目的は、「国民の幸せづくり」であろう。今回、福井県を久しぶりに訪問し、「幸せづくり」が着々と進められていることを再認識した。各地を案内してくださった松永さんは、私が福井を訪ねた1月26日に、82歳の誕生日を迎えられたが、「やらねばならないことが、まだまだたくさんある」と衰えぬ意欲をのぞかせた。

■ 医療、介護、福祉、食、健康、交流の垣根をなくす

福井市二の宮にある複合施設「つながるベース」。たくさんの窓に囲まれた瀟洒な建物には、診療所、カフェ、パーソナルフィットネスジム、レンタルスペースがある。診療所の待合スペースとカフェは透明のガラスで仕切られ、開放感にあふれている。このカフェは、「病院内の食堂」とは違い、独立した飲食店となっている。実際に、診療所を利用せず、ランチやコーヒーを楽しむ人たちが大半という。

「つながるベース」は、医療法人オレンジグループ（紅谷浩之代表）が運営している。グループの理念は、「あなたの『生きる』に寄り添う」。「生きる」に寄り添うためには、医療だけでは足りない。仲間と飲食や会話を楽しむカフェ、一人一人の状況に合わせて健康をサポートするパーソナルフィットネスジム、地域住民が集えるレンタルスペースもあったほうがいい。そんなニーズ重視の発想から、2022年12月に「つながるベース」をつくった。診療所は内科、小児科、訪問診療、オンライン診療も行う「町のかかりつけ医」だ。カフェには、来店客の健康相談にのる「コミュニティナース」がいる。

フィットネスジムでは、理学療法士によるパーソナルサポートを受けられる。レンタルスペースは、健康体操や脳トレなどのイベントのほか、乳幼児とママ向けの遊び場、早期療育学習の場としても使われる。「つながるベース」は、赤ちゃんからお年寄りまで、国籍を問わず、病気の人も健康な人も、だれもが気軽に集える場所なのだ。

マネージャーの近藤正朗さんは、「地域の人たちが元気な時からつながり合えることが、最も大切。

そのつながりの中で、医療（＝診療所）は‘ちょっとした安心感’を与えるくらいの存在」と話してくれた。



「つながるベース」の建物内。右側が診療所の待合スペース、左側がカフェ。

■ 年齢、国籍、障害、経済力の壁を壊す

若狭町には、「健康生きがいサポート互助会」が2017年から運営している賃貸住宅がある。「かみなかコーポ」（3棟79戸）と「瓜生コーポ」（2棟60戸）だ。引き受け手のなかった旧雇用促進住宅を活用したもので、現在の入居率は約50%。ひとり親家庭、単身高齢者、障がい者、無職者、外国人技能実習生など、多様な人たちが暮らす。

「健康生きがいサポート互助会」は、年齢、国籍、障害の有無、経済力といった垣根を取り払い、コーポ住民の交流を積極的に促す。農園での野菜栽培、料理会、正月飾りづくり、高齢者向けフレイル予防教室、子供学習教室、障がい者アート教室。コーポの一戸を改良した「サロン室」を主な拠点として、これらの多彩な活動を展開している。

活動を通じ、住民同士の支え合いの意識が高まり、安心感の高い住環境が整いつつある。外国人技能実習生に住民が日本語と日本の文化を教え、代わりに外国人技能実習生が母国の言葉と文化を日本人住民に教えるなど、多文化共生、ダイバーシティの意識が自然に根付く。2023年には「かみなかコーポ」の一室を、退院後の高齢者などが一人で暮らせる安心住居に改装した。



外国人居住者向け日本語教室

今後は医療・介護・福祉面の安心感をさらに高めたいという。「つながるベース」を運営するオレンジグループの協力でコーポ内に診療所を作り、訪問医療を行う案や、看護師に家賃の半額を補助してコーポに住んでもらう案が検討されている。代表理事の松永さんは、「大規模な介護施設を新設する必要はない。既存の建物や地域の社会資源をうまく活用すれば、だれもが安心して暮らせる環境を整備できる。その方が人口減少の進む日本、特に地方では理にかなっている」と強調する。

■ 子供、障がい者、プロ作家の垣根をこえたアート

若狭町では、特定非営利活動法人「若狭美&B ネット」（長谷光城理事長）の活動を取材した。この法人は、2006 年から年齢、性別、障害の有無、プロとアマといった違いをこえた芸術の普及に力を入れる。また、様々な課題を抱える人に寄り添い、社会自立を促す基礎教育と真の共生社会づくりに取り組んでいる。その集大成が、2024 年 1 月 3～14 日に福井県立美術館（福井市）で開かれた「まるまるつながるアートてんまる」（主催・福井県）だ。障がい者アート、現代美術、子ども美術のコラボ展が「はじまる」「ひろまる」「ふかまる」一。PR チラシに、同展の名称に込められた思いが、こう記されている。

障がい者アートは、余暇活動の一環としてとらえられがちだ。子どもの美術は、教育的な意義に重点が置かれる。どちらも、プロの芸術家の作品とはまったく異なるものとして見る側は受け止める。「まるまるつながるアートてんまる」は、これを打破する狙いがあった。会場には、知的や精神に障害がある人たち、子ども、プロの現代アート作家、計 190 人の 383 点が分け隔てなく展示された。

私は、この展覧会を見ることはできなかったが、作品の一部を「熊川宿若狭美術館」で鑑賞した。この美術館も「若狭美&B ネット」が運営している。学芸員の小林雅代さんが、芸術の知識のない私に、熱心に解説してくれた。軽い知的障害のある坪内一真さんの作品は、3～4 年かけて描いた 100 号ほどの大作。昨年鑑賞したある人から、「1,000 万円で買いたい」という話があったそうだ。確かに、「プロの作品です」と紹介されても違和感のないレベルである。

障害があろうがなかろうが、子供だろうが大人だろうが、プロだろうがアマだろうが、アートには本来、そんなことは関係ないのではないか？「作品そのもの」を純粋に感じて評価してほしい。

「熊川宿若狭美術館」に並ぶ数々の作品からが、そんな声を聞いた気がした。



高い評価を受けた坪内一真さんの作品

👉 第 68 回（2017 年）福井県 総合美術展 **福井県 知事賞**

■ ワークとライフを融合させる

越前市の障害福祉サービス事業所「ピーぷるファン」は、就労継続支援 B 型と生活介護の事業を展開している。60 人弱の利用者の大半に中重度の知的障害がある。驚くのは、利用者の賃金の高さだ。月の平均賃金は、B 型利用者で約 8 万円、生活介護利用者でも約 5 万円。なぜ、このような高い賃金を実現できるのだろうか？

まず、仕事の種類が多い。多様な仕事があれば、利用者一人一人に、特性に合わせた仕事を提供できる。トヨタ「レクサス」車のドアの消音材を包むビニール袋、ゴルフクラブのヘッドカバー、美容室で使うケープ（切った髪が衣服につかないよう首から巻くもの）も作っている。弁当、クッキー、プリンなども主力商品だ。乳酸菌入りの豆乳おからクッキーは、ネット通販でダイエット中の人たちから人気を集め、フル回転で製造している。

さらに、機器を積極的に導入することで、作業を単純化し、安全性を高める。これにより、重度の知的障害がある利用者でも仕事ができる。

最も刮目すべきは、利用者の「生活の質」の向上に注力していることだ。花見、バーベキュー、泊りがけのキャンプや旅行、障害者スポーツ大会や調理・接遇のスキルアップ大会参加、絵画教室など頻繁に実施している。単なる余暇活動ではなく、就労支援と同等に、「ピーぷるファン」の重要な活動と位置づけている。利用者は、活動に参加することを目標に、例えば、少しでも長く歩けるように普段からウォーキングをしたり、トイレの回数を減らすために水分摂取の方法を身につけたりと努力する。旅行の際、ホテルのビュッフェ形式の食事で、食べられる分だけ皿に盛るなどのマナーも身につけた。



社会生活体験研修旅行



職能スキルアップ大会に出場

生活の質の向上活動



数多くの機器が並ぶ作業スペース

「ピーぷるファン」を運営する社会福祉法人北日野こもればい会理事長の田辺義明さんは、「ワークとライフは別々ではない。生活での様々な体験が、仕事への意欲や集中力、計画性をはぐくみ、生産性向上や高賃金に結びついている」と力を込めた。

■ 多様な動機を受け止める「命の防波堤」

名勝でありながら、自殺者が多いことでも知られる坂井市の東尋坊。この地で 20 年前、自殺を食い止める NPO 活動が始まった。中心となったのは、福井県警の元警視・茂幸雄さん。東尋坊に茶屋兼相談所を設け、仲間と共に岩場をパトロール。これまでに 800 人以上の自死企図者の相談にのり、その命を救ってきた。

自殺の動機は実に様々だ。私たちが容易に想像する借金、生活苦、病苦、いじめ被害などだけではない。軽はずみな SNS 投稿で大事に至ってしまい悩む女性、社内規則違反による自己嫌悪、コロナウイルス禍での就職難、容姿コンプレックスから化粧品や洋服を大量購入してしまう女性、性同一性障害、近親相姦。「部活の先生が他の生徒をえこひいきし、自分には何も指導をしてくれない。世の中が嫌になった」という高校生もいた。

茂さんたち十数人の NPO メンバーは、どんな動機であれ耳を傾け、自死を思いとどまらせる。動機の種類にいちいち行政や法令の縦割りの「枠」を当てはめていたら、今にも死のうとしている人たちを救えない。

2024 年 1 月下旬、茂さんたちは新しい取り組みを始めた。茶屋兼相談所の窓際に大型のパソコン画面を設置し、無人となる夜間に、自殺を思いとどまるよう呼び掛ける音声と画像を流し始めた。「人目につかない夜に、自死するために東尋坊を訪れる人もいます。でも、どんな苦しみでも、全て解決策があると思いますよ」。80 歳の茂さんは、穏やかな表情に確信をにじませた。

2022 年 11 月に自費出版した書籍「親愛なる内閣総理大臣さま 命の防波堤 東尋坊から」の最後に、国民の命を守るべき立場にある国会議員に対し、こんな提案がなされている。

国会議員は、選挙区内に住む自死遺族から聞き取りを行い、命を守るための政治的課題を調査してほしい。そして、その結果を政治資金の使途明細書とともに公表してほしい…。

籍書の発刊は、いま大騒動になっている「裏金問題」が発覚する 1 年前である。この提案が国会議員たちに届くことを願う。



茶屋兼相談所の窓際に設けられた大型画面。👉

夜間、自殺を思い止まるよう呼び掛ける音声と画像が流れる。

写真中央、NPO 法人 心に響く文集・

編集局 理事長 茂 幸雄 さん

みんな・・・いるで、・・・みんな・・・してるで

ー 学び・創作・やりがい・いっしょー

大谷 源一

1. 学び

元教員を中心に技能実習生への日本語教室を行っている。

これまで休日や勤務から帰宅して、同じ国の人たちと LINE を使ってやりとりをする時間がほとんどで、地域の人との交流に乏しかった。地域の人が積極的に声掛けすることも稀な環境にあったことから日本語教室を開始することにした。そして、いつしか地域の人も参加するようになっていく。Education をこの国では「教育」（教え育む）と言っている。語源はラテン語の educare=やる気を引き出す。長く教員をしていた人はまさしく「やる気を引き出す」場を創出している。

2025 年は昭和 100 年になる。いつまでも明治の発想にあらず、国籍を問わず「やる気を引き出す」取組が拡がり、地域の人のみならず、行政関係者や技能実習生を受け入れている法人の関与もあっていいと感じている。



退職教員と住民が日本語教室

フリーのアプリ duolingo や東京外国語大学の「東外大言語モジュール」との併用で、日本語を「学ぶ」からどんどん日本語を「使う」ことになっていくはずだ。

かつてよそ者に外国籍の人が含まれていた。現在、そんな状況にはない。また、3 歳児～高校生の学習支援も継続的に行われている。造形については、3～5 歳児、小学 1～3 年生、4～6 年生ときめ細かく分かれての実施となる。中高生には英語と数学、また美術系大学志望者には実技と表現を、不登校児・生徒の自立支援と様々なプログラムが用意されている。どちらのプロジェクトも高齢者を中心に運営されている。リタイアした者が陥りやすいことがある。例えば縦軸に己の培ってきたものの完成度をあげる、横軸に時の変化がある。縦軸の完成度をあげていこうとすると横軸の時間の変遷とは乖離が大きくなっていく。プロジェクトに関わる高齢者はこれとは無縁なのでそれぞれ成果をあげているのだろう。



ものづくり美学舎

2. 創作・・・生きがい・と・共に やりがい

子どもたちが、みんなで料理をして食する。多めに作った料理は家に持ち帰る。すると親は、この子がこんなの作れるんだとなる。そこで、親はこれまで以上に子どもを深く感じ、子どもは自己肯定感を強く持つようになっていく。そんな目的を持った子ども家庭料理教室が行われている。

一方で、ごく限られたG-1 野菜を復活普及する「山内かぶらちゃんの会」の食堂がある。ここは、三輪車スクーターでやってくる高貴な女子高齢者が働いている。営業日は土日月、営業時間は 11～14 時。こんなゆるくていいんよね、そんな感想を持たせてくれる。

家庭料理検定



子ども家庭料理教室



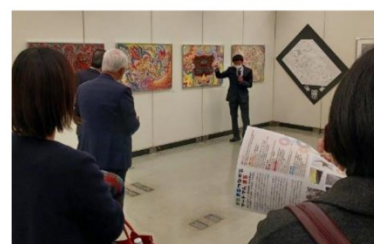
山内かぶらちゃんの会

みんないるで・・・どちらも創る・・・そしてやりがいを生み出す取り組みになっている。

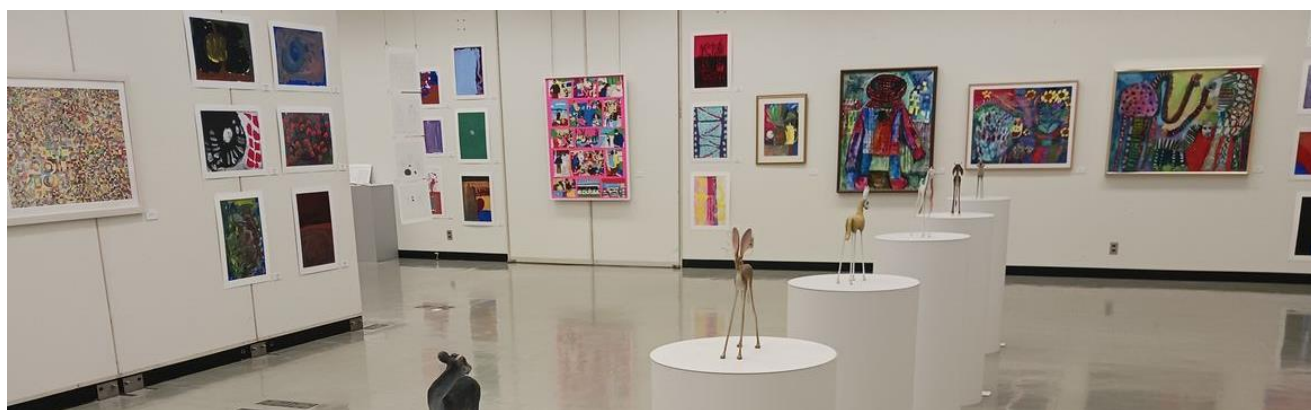
2024 年 1 月新年早々に、障がい者アート、現代美術、子ども美術を同時に開催するイベントがあった。キャッチは「まるまるつながるアートてんまる」。障がい者アートでは、毎年滋賀県大津市で開催のアールブリュットが知られている。福井県ではこの 3 つのカテゴリーを同時にしかもフラットに開催している。とりわけ、障がい者のアートは、わざわざ「障がい者の」アートとくくる必要がどこにあるのだろう思っていた。例えば、瀬戸内国際芸術祭に「アーティスト、子ども、障がい者」の作品が区分けすることなく展示されたら、三者それぞれにオファーがあって、その作品を海外に広めるチャンスが生まれるだろう。通称瀬戸芸のスポンサーがこんな取組まで拡大していったら新しいビジネスと作者の評価を獲得できるはずだ。そして、どなたかの弁では「障がい者が美術系学校の教壇に立つ」、それは新たな世界を生み出すことになる。



まるまるつながるアート…開会式



まるまる…ギャラリートーク



子ども美術

現代美術

障害者アート

3. 学び・創作・やりがい・いっしょ …… 共存と共生

この国のこれから、例えばある企業で毎年 100 人が退職し、60 人の新規雇用者しか確保できなくなっている。この状況はもっと厳しくなっていく。とりわけ地方都市では更に厳しい状況が生まれることになる。

第二次安倍内閣で地方移住が政策の一つとなった。移住だけでいいの？というのが素朴な疑問として持ち続けている。ある法人（企業）では、事業継承を目的とした移住プログラムがある。子どもの頃から変わらない私の土地は！地域は！町の！衰退を免れない。



若狭町老人クラブ連合会研修会

それでは人口減少が加速化するだけだ。そこに事業継承を志向する移住者がやってくると町は変わる。

ほとんどの基礎自治体が抱える課題だ。フロントランナーとなった基礎自治体だけが生き残る、そんな時代の到来です。



かみなか農楽舎

1 きらりアート活動

「きらりアート活動」に取り組む目的は、高齢者・児童・障害者・疾病者等が絵画創作療法で個々の感性と知育を増進し「生きがい」を創出することです。

参加者の真摯な取り組みにより、自己肯定感を高め自信と意欲を持った心豊かな暮らしの実現に繋がります。

潜在能力を開花させたアーティストは、プロ級作家としての創作活動で「やりがい」を享受できる「生活自立」支援に挑戦です。

令和5年度も県内3か所（坂井市春江町1か所、越前市2か所）で「きらりアート部サテライトアトリエ教室」開催しました。毎週土曜日、または、日曜日の午前中2～3時間、指導と支援を行ってきました。

サテライトアトリエで制作した作品は、きらりアート展・まるまるつながるアートてんまる等に出展し、受講生は、自主的に受付や見守りなどをしていました。

また、参加者とその家族、指導講師、支援者の資質向上を目的とした「アート展鑑賞研修会」を実施してきました。

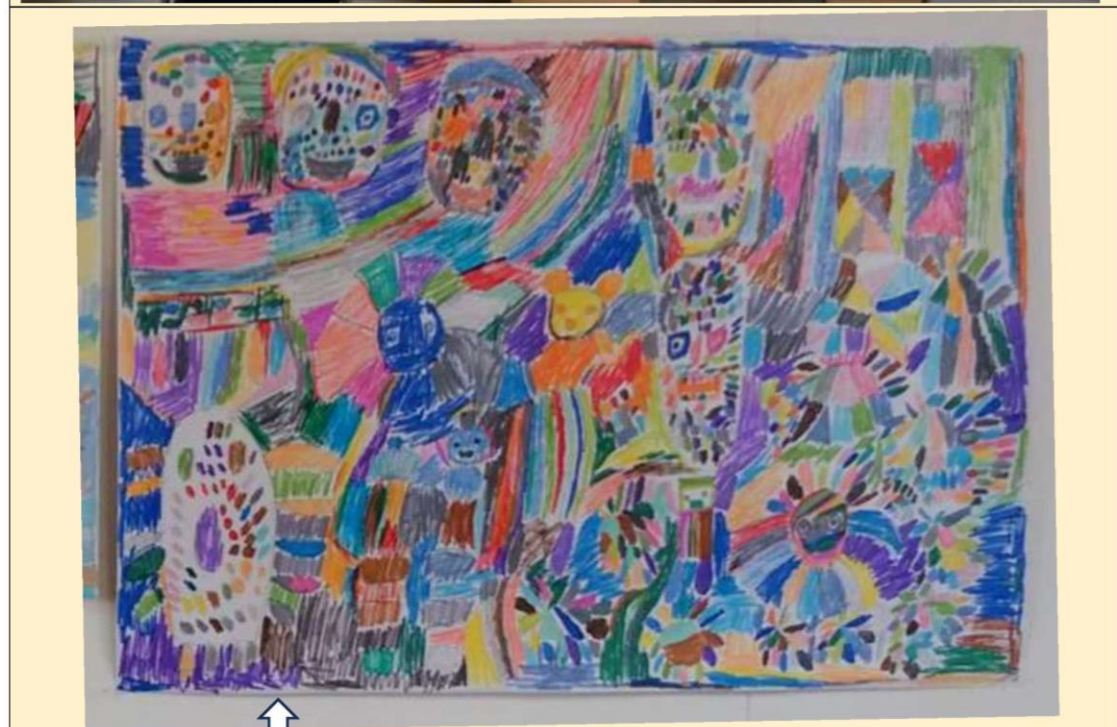
(1) きらりアートサテライト教室

毎週1回、各サテライト教室で「きらりアート活動」を行ってきました。

令和5年度は活動を始めて3年目となり、指導の成果が出てきました。参加者の作品作りに対する意欲が次第に高くなり、制作する作品がどんどん変わっていきました。参加者の生活や仕事に良い影響が出ています。



【アトリエ参加者の3年間の作品の足跡】



2023 年度きらりアート展 : 松永さんの応募作品

受講生が『きらりアート部』春江教室に参加して2年余、気付いたことは、修練・鍛錬・学習の機会を与えることと、善き指導者と気心の合った友達づくりの大切さであり、お互いに学習し合うことでの進化と成長の姿に触れた時、アートの力底力を感じます。上段の絵は康明さんの足跡です

【真剣に取り組む努力を認められ 褒められる 楽しい制作活動】



柴山さん…真剣です。教室で学ぶ仲間にも信頼されより好い効果を産み出しています。



出村さん…学校でも先生に作品を褒められ、学業成績も好循環を醸し出しています。



杉本さん…楽しい。嬉しい。絵画教室のお陰で、仕事でも気持ち良く働ける。

岡崎さん…日々の暮らしに、新たな元気を吹き込み。新天地の職場にも挑戦。



教わることに、喜びを … その表情が、絵に表れている…
先生のお陰や…の眩きと共に… 令和5年6月4日：春江教室 一同

(2) きらりアート鑑賞研修会

サテライトアトリエの活動で制作した作品を出品しました「第14回きらりアート展」会場のパレア若狭（若狭町）に行き、きらりアート展審査員長の長谷光城様に寸評とご指導をいただく研修会を実施しました。

日頃ご指導いただいています講師の先生方からのご指導を受け、後記【参加者感想】にありますように、参加者は学び、作品制作への意欲を高めました。

【鑑賞研修会パンフレット 表紙】

「第14回きらりアート展」 鑑賞研修会

若狭ものづくり美学舎きらりアート部・

サテライトアトリエ春江・サテライトアトリエ越前（ぴーぷるファン）



令和5年10月15日（日）

於：パレア若狭（福井県若狭町）

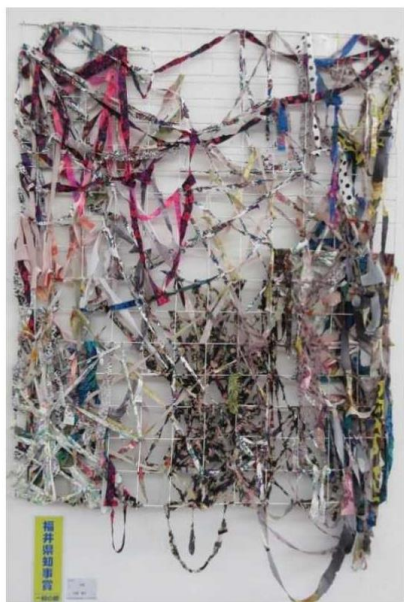
～ パレア若狭ギャラリー 他

一般社団法人健康生きがいサポート互助会

特定非営利活動法人若狭美&Bネット

【鑑賞研修会パンフレット 作品紹介ページから】

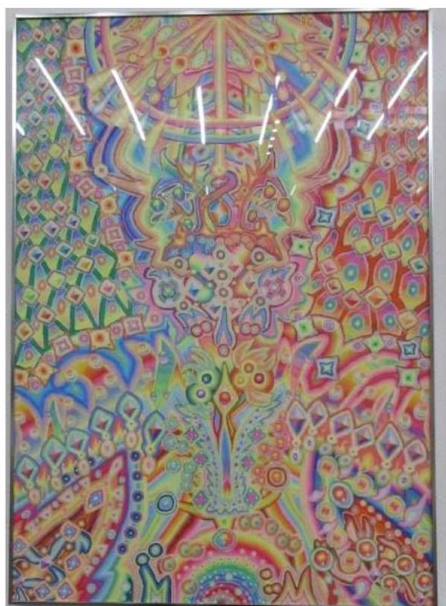
第14回きらりアート展出品作品



杉田優子 作品
＜福井県知事賞＞



出村惇弥 僕の龍
＜きらりアート大賞＞



柴山信宏 飛べ大空へ
＜特別賞＞



杉本常子 みんな明るくな～れ
＜きらりアート賞＞

【鑑賞研修会パンフレット 作品紹介ページから】



杉本伸悟 カラフルパワー
＜審査員特別賞＞



松永康明 カラフルな仲間たち
＜審査員特別賞＞



岡崎剛典 和紙作り
＜きらりアート賞＞



岡崎剛典 僕の世界



黒鉄 コワレタ世界
＜きらりアート準大賞＞



舟田美鈴 かえりたい・・・
＜きらりアート大賞＞

【鑑賞研修会パンフレット 作品紹介ページから】



山岸琉聖 女神と不思議なサーカス団



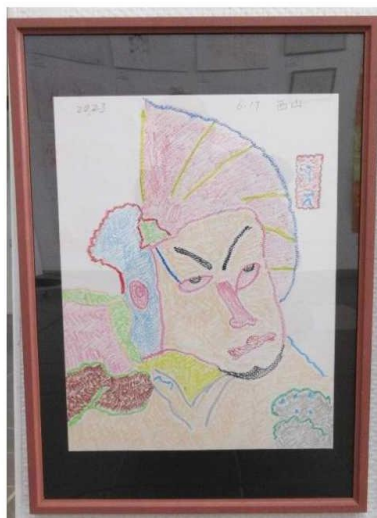
島田陽太 森林と緑の鳥



あずりん キャラクターのなかまたち



NON 安芸の宮島（ひきしお）



西山守 歌舞伎



吉田圭佑 JALの絵

【鑑賞研修会パンフレット 作品紹介ページから】



きよ はるのみずうみ



藤田祐人 シャボン玉と大切なもの



A m i ゆめのトンネル



アヤナ ホワイトタイガーとライオンと花畑
でのさんぽ

【鑑賞研修会パンフレット 作品寸評ページから】

きらりアート賞受賞作品寸評 長谷光城 審査員委員長

(一般の部)

きらりアート大賞 舟田美鈴

優しい目を持つ動物たちを見事な描写力で表現しています。色調もいいです。

福井県知事賞 杉田優子

太い金網に切った布を自由にかけたレリーフ作品で、影を取り込んだ空間が見事です

きらりアート準大賞 黒鉄

ボール紙にサインペンがマッチしています。描きたいものを描く集中力が生きています。

審査員特別賞 松永康明

鉛筆で輪郭、それをマジックで塗る手法の中で、流れるような清々しい動きを生み出しています。

審査員特別賞 杉本伸悟

実に綿密で見事。4種類の絵が大きな一枚になっています。もう少し分類されたら、より素晴らしいと思います。

きらりアート賞 杉本常子

背景のリズム感がとてもいい。リズムの中にご機嫌な顔、その顔がよりリズムに乗れば、なお楽しいです。

きらりアート賞 岡崎剛典

写実主義的な作品として評価。しかし、いつものもう一工夫が欲しかったです。

特別賞 柴山信宏

特別賞は2回以上、大賞を受賞したベテラン。それぞれに自分の世界を出し切っています。

(児童の部)

きらりアート大賞 出村惇哉

龍に迫力があります。赤の中の城もいいです。

【きらりアート展 鑑賞研修会 参加者の感想（ぴーぷるファン）】

- ・ いろいろな絵が展示されていて、人によっていろいろな身体の事情がある中で、とてもすごい絵がたくさんあり、自分はその作品たちの中で準大賞を取れたことは奇跡的なことだと思いました。次は大賞をとってみたいです。（川崎）
- ・ 見に行ってみたら、みんな絵具を使ってきれいに描いていて、細かくて小さい紙を何枚もくっつけて出している人もいました。あと、大きな紙に細かく目立つ絵を描いている人が多くて、見ていて楽しかったので、ぼくも大きな紙で賞が取れるようリベンジしたいと思いました。（山岸）
- ・ きらりアートのJALの絵を見て、とても楽しかったです。他の人の絵を見るのが楽しかったです。あっちの嶺南地方で見るのが楽しかったです。（吉田）
- ・ 楽しかったです。また来年も行きたいです。（藤田）
- ・ みんなの絵がとても難しかった。こんな絵が描けたらいいな。みんなの絵がとても良かった。絵が描けて賞がもらえたらいいな。（西山）
- ・ 他の人の絵を見て、ディズニーの絵が描いてあるのを見ました。いい絵だなと思いました。その絵を見て私もディズニーの絵を描きたくなりました。クレヨンと色えんぴつを使って書いてみようかと思います。（道場）
- ・ 絵画教室のみんなできらりアート展を見に行きました。いろんな絵とアートがあって、とてもすてきでした。私の描いた絵が飾ってあったので嬉しかったです。（宮腰）
- ・ 賞が取れたことを聞いてびっくりした。犬は自分の家で飼っている犬が子犬の時、こんな感じだったろうなと思って描いた。犬の先祖がオオカミだったから一緒に描いて、家にバラが咲いていたから描いた。地球の温暖化でシロクマの住むところが氷河が溶けて住めなくなっているから最後に描いてたら地球がどうしても必要不可欠だと思って描いた。背景がどうしてもうまくいなくて悩みに悩みまくった。これからも、動物の毛並とか人物とか上手く描けるよう本を見ながら練習しようと思っている。（舟田）

(3)「まるまるつながるアートてん まる」 ～出展者の思い～

令和6年1月3日から14日まで、福井県立美術館で『まるまるつながるアートてん まる』が開催されました。この展示会は、障がい者アート、現代美術、子ども美術を区別することなく一同に展示するコラボ展で、「世代、民族、障がいのあるなしにかかわらず、一人ひとりが生き生きとして共に手を取り合って生きる共生社会をアートの視点から発信する」(長谷氏談) 展覧会です。

【作家が展示会ギャラリートークで来場者に語った「作品に込めた思い」】

負けない気持ち



周囲から巨大な大波となって押し寄せてくる困難に、果敢に立ち向かっていく姿を表現しました。

ぼくがいきててぼくがうまれてごめんなさい



国の立法機関である建物の上に不気味な目玉が浮遊し、その下には人々の凄惨な光景が広がっています。これは権力によって、社会から虐げられる人達を描いたもので、このタイトルには子供達が自分の存在そのものを否定してしまうような悲しい世界にはいけないという願いが込められています。

カラフルな画面の中央の暗い空間に、傷つき、闇の中に沈んでいく何人もの手と、それを見下ろしている無数の目を描いています。これは世の中にあふれている差別と、それを覆い隠してしまう現代社会を色の明暗で表しています。

希望



小さな種子にたくさんのパワーが集まれば花が咲き、それが闇に染まりつつある世界を照らし、希望の光になる様を描いたもので人間の可能性を信じさせるポジティブな作品に仕上げました。

イラナイモノ





ビック・バン



感染症が流行し行動が制限された時に作製したもので、ウイルスを宇宙の果てまで吹き飛ばすつもりで描きました。

大きな翼をいっぱい広げ、新天地へと飛び立つ様子を描きました。知人の先生から絵画教室を紹介されて通うことになり、心機一転の気持ちで取り組んだ作品です。

飛べ 大空へ



今回の作品には明るくカラフルなものだけではなく、不気味で暗い色調のものがあります。人によっては不快に感じたかもしれません。僕も明るく楽しい絵が好みです。

しかし、どんなに悲しくても、目をそむけたくなることでも、僕は自分の思いに正直に描きたいです。なぜなら絵は言葉では伝えきれない思いを、誰かに知ってもらうために必要なものだからです。そのためには嬉しいことや楽しいことばかりではなく、悲しみ、不安、恐怖の感情も自分を偽らずに、本心で作品と向きあう必要があるのです。

そして、思いの詰めた作品をたくさんの人達に鑑賞してもらい、僕らのこと、障がい者のことを知ってもらえたらと思います。それが差別をなくす一歩かもしれません。そのためにも精一杯絵を描くつもりです。

柴山 信宏

来場者は、柴山氏の作品に込めた思いを聞いて感動し、展示作品の魅力をじっくりと味わいながら鑑賞して이었습니다。

障がい者アート・現代美術・子ども美術への理解が「はじまる」「ひろまる」「ふかまる」○3つの
意味を込めて「まるまるつながるアートてん まる」と名付けられた、**3つの美術 コラボ展覧会**



出展の歓びを明日につなぐ 鑑賞・共育・学習！受付を担当するきらりアート 受講生の皆さん👏



子ども美術の講演会とギャラリートーク参加者 409 人
子どもたちの絵は、子どもの心と育ちを語っている

子ども美術3つの原則 🖐️
《テーマを決めず、技術指導をせず、ほめて励ます》
ことを大事にしながら寄り添い、支援する待ちの姿勢

NHK福井放送局 放映 ニュース：2024年1月10日 18時15分～



作者の真心に触れ・始まる理解・広まる友情・深まる共生社会・偏らず・拘らず・囚われず・
 先ずは 心と視点のバリアフリー 誰もが健康で・元気に働き・暮らす 真の共生・共存社会を目指して
 全ての作品が生き活き・フラット・楽しめる明日を担う子どもたちに夢を託そう明るく元気な安心社会を
 お爺ちゃんも = 定年後・・・孫と一緒に絵を学び・・・家族の絆を強めたい

障害ある人、現代美術、子ども、三つのアート響き合う・・・分断社会乗り越える力に

(4) きらりアート交流展 ～きらりアート展 in うみんぴあ大飯～

「まるまるつながるアートてん まる」を鑑賞されました「大和リース株式会社福井営業所」は、展示を高く評価され、美術展監修長谷光城氏のメッセージ「世代、性別、民族、障がいのあるなしにかかわらず、共に手を取り合って生きる共生社会実現への…」に共感されました。

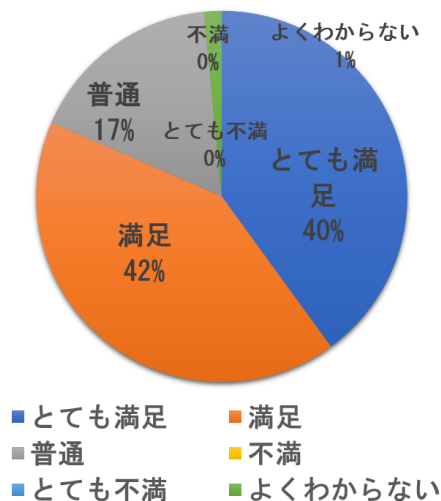
大和リース株式会社は、「地域共生社会をつくる整備事業」に取り組む企業で、同企業は北陸新幹線福井県内開通日(3/16)に「うみんぴあ15周年イベント」を開催する予定でした。そのイベントの一つとして「障がい者アート展」を行うことになり、同企業からの依頼によりきらりアート活動を行っている NPO 法人若狭美&B ネットと当法人健康生きがいサポート互助会が実施団体として参加しました。

当日は、「きらりアート展 in うみんぴあ大飯」に100名以上の入場者がありました。60名以上のアンケート回答もいただくことができ、展示会は盛況に終え、「共生社会実現への…」の契機となりました。

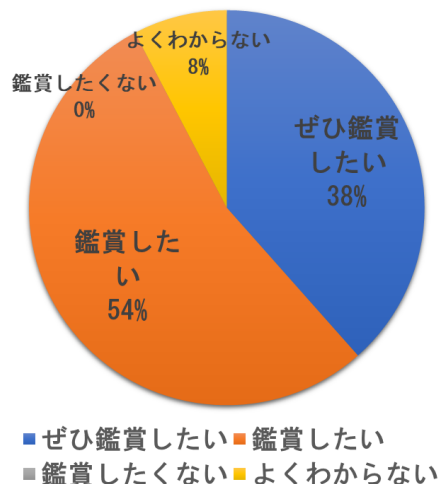


【来場者アンケートより】

アート展の評価



次回アート展希望



【来場者の意見や感想より】

- ・ 独特な表現の仕方が非常に興味深かった。
- ・ とても 見ごたえのある素晴らしい作品でした。こういう作品展を今後とも開催を続けてください。
- ・ 色使いが鮮やかで楽しくなる心から楽しんで かいておられてよかった。ずっと続けて欲しいです。
- ・ 独創的なアートばかりで良い刺激になりました
- ・ 色彩が明るく 心が和みました。
- ・ 力強さ 粘り強さを感じた。またやっていたら見たいです
- ・ 作品はどれも集中力がすごく必要なものだったと思います。仕上がるまでに1年半ほどかかる作品もあるということで納得いたしました。細部にこだわりが現れていて こちらも集中して見てしまいます。とても心に残るものでした。
- ・ 絵の大きさ 色使い などを目の前で見ることができ とても満足です。みんなの感性が素晴らしいたくさんの人に見てもらいたいと思います。たくさん作品をこれからも見ていきたいと思います。アートがもっと身近なものになるといいと思います。

2 人命救助相談活動

東尋坊で遭遇した 令和 5 年一年間の 自死企画者 救済対応 状況 NPO 法人 心に響く文集・編集局 (2023 年 1 月 1 日～同年 12 月 30 日まで : 35 人)

遭遇者	事 案 の 概 要	措 置 (措置者氏名)
(2023 年－1) 2 月 4 日土曜 15 時 50 分 北海道内在住 59 歳 女性 【統合失調症】	小雨降る中、遊覧船乗り場の階段に座り込んでいた女性に声を掛けるところ皆が私をバカにするため生きづらく自殺しに来た旨を語るため相談所で詳細を聴いたところ私は精神病院に 8 カ月間入院した事があり、ススキノで風俗嬢として働いた時の男女関係や盗撮・盗聴された家庭内の生活をネット上に流され、私の知らない人が私の顔を見て笑い、バカにされることに耐えられず自殺の名所をネットで探したところ東尋坊は自殺の成功率が高いと書いてあったので昨日 7 時頃家を出て金沢に泊まり、正午頃東尋坊に着き飛び込む場所を探していた時に声を掛けられたと語る自殺企図者だった。	・昨夜福井市内で泊まる予定が警察に通報され警官に「家出の手配が出ている。」と言われ、逃げて金沢市内で泊まった。 ・家出の手配が出ている事で 16 時 30 分頃地元警察に保護を依頼し引継ぐ。 (茂)
(2023 年－2) 2 月 13 日月曜 13 時 15 分頃 京都府内居住 34 歳 男性 【人事異動 苦】	気温 5℃の寒い日で小雨降る中、吾妻屋で震えて休んでいた男性に声を掛け相談所で話を聴いた。 現在介護施設で医療介護士主任として働いているが上司の指示に従わなかった事で異動を命じられ別のグループと仕事をすることになったことで嫌になり三日前から無断欠勤し京都・大阪市内を泊まり歩き、将来が見えなくなり自殺を考えて東尋坊に来たが海が荒れており寒いためどうしようかと考えていた所に声を掛けられた旨を語る自殺企図者だった。	・会話中携帯電話が鳴りやまなため出るよう促したところ京都府警からで自殺企図者として家出の届けが出ていることで坂井西警察署に事情説明し保護を依頼した。(岡田)
(2023 年－3) 2 月 22 日水曜 17 時 10 分頃 静岡県内在住 20 歳 女性 大学 2 回生 【失敗した責任回避】	気温 7℃と寒い中、ろうそく岩近くの岩場最先端で佇む女性を自殺企図者と認め近づいたが気配を察して逃げ去ろうとしたため呼び止め相談所で話を聴いたところ「現在国立大学 2 年に在学中だが、サークル活動で使用する 50 万円の外注品を注文したが私の間違いで 3 月上旬の納期に間に合わなくなった事からサークルの皆さんに迷惑が掛かる。この責任追及をされることを避けるため死んでお詫びしたいと考え飛び込む場所を見つけた所で声を掛けられた」と語る自殺企図者だった。	・サークルの仲間と話し注文品の改善で納期に間に合う事が判明。 ・母親から迎えに行くまで警察での保護を頼まれ本人の承諾を得て 18 時頃警察に保護を引き継ぐ。 (茂)
(2023 年－4) 2 月 24 日金曜 17 時頃 岡山県内居住 44 歳女性 【夫による DV】	曇った寒い日、東尋坊岩場付近にあるベンチに大きなボストンバック 2 個を持ち震えながら海を眺めていた女性を自殺企図者と認め声を掛け相談所で話を聴いたところ「夫の言葉による虐待が続く離婚したいと言っても離婚してくれず耐えかねて一ヶ月前に家出。故郷である奈良県内の知り合いの家に泊まり歩き、所持金が 1 万円となり生活が出来なくなって自殺を考えて来た」と語る自殺企図者だった。	・宿泊費も無い夜間のため福井市内で一泊。 ・夫は「自殺」を仄めかすメールが突然来たため架電で無事を確認。警察の保護を依頼され警察に引き継ぐ (杉本・川越・裏)

<p>(2023 年ー 5)</p> <p>3 月 11 日土曜</p> <p>15 時 20 分頃</p> <p>鹿児島県内在住</p> <p>56 歳 男性</p> <p>【失業・厭世観】</p>	<p>雄島を望む東尋坊の芝公園内のベンチに大きな手荷物を持ち休んでいた男性に声を掛けたところ「人生が嫌になり自殺をしに来た」と語るため説得し相談所で話を聴いた。自死願望の背景は「自分は三人兄弟の一番下で両親は他界、母の実家は林業を営み自分が祖父母の面倒を見て来たが祖父母も他界、兄二人とは祖父母の生活費を見てくれなかった事で仲が悪く 20 年以上付き合いは無く独身の自分は派遣社員として愛知県で働いた後約 15 年間東京でタクシーの運転手をしていたが収入が少なく人生が嫌になり約一か月間全国を転々として所持金が無くなり人生を閉じたく自殺を考えて東尋坊に来た」と語る自殺企図者であった。</p>	<p>・所持金は 6,770 円、健康体で働く意欲も見せたため緊急避難所 202 号室で保護を開始。</p> <p>・3 月 16 日突然姿を消したが以前大阪の NPO 法人の世話にもなったと言っていたことからそこを頼ったと思われる。(千秋)</p>
<p>(2023 年ー 6)</p> <p>3 月 19 日日曜</p> <p>13 時 50 分頃</p> <p>埼玉県内居住</p> <p>43 歳 女性</p> <p>【育児苦・適応障害】</p>	<p>コロナ禍が 5 類になった最初の晴れた日曜日で東尋坊は大勢の観光客で賑わう中、ロウソク岩付近の水際で海を眺めていたため自殺企図者と認め声を掛け相談所で話を聴いたところ、5 日前の 3 月 14 日に自殺を考えて家出。京都・大阪を巡り歩き、自殺をしに来た。その理由は、主人と 5 歳になる男の子に対する養育方針の意見が食い違い、もう一人子どもが欲しいと言っているのに子供が出来ず、予ねてから旦那と衝突ばかりしていることから人生が嫌になり自殺に来た旨を語る自殺企図者だった。</p>	<p>・約 3 時間のカウンセリングで自殺願望が消えたことで旦那に電話で適応障害者の対応について検討した。</p> <p>・自殺する恐れがあることから本人及び家族の承諾を得て 18 時頃警察に保護を依頼した。(杉本)</p>
<p>(2023 年ー 7)</p> <p>5 月 12 日金曜</p> <p>18 時頃</p> <p>福井県内在住</p> <p>23 歳 女性</p> <p>【鬱病】</p>	<p>今日までに自殺未遂 4 回。今日、茂さんに会えなかったら東尋坊で死ぬつもりで電話に福井市内で話を聴いたところ「2 ヶ月前の 3 月から正社員として AI 関係の会社に就職、約 1 ヶ月の宿泊研修を終え 5 月からの通勤に朝起きが出来ず、母親に内緒で会社を休んだところ GPS で検索され、ずる休みがバレ母から『本日 16 時までに出て行け』と言われて自殺を考え茂さんに電話を掛けた」自殺企図者だった。</p>	<p>・所持金 6,770 円、母親と話が出来ずホテル泊。翌日は緊急避難所で保護開始。二泊後母親からのメール「鬱病で辛いなら帰って来なさい」で自宅へ送り届ける。(茂・川越)</p>
<p>(2023 年ー 8)</p> <p>6 月 16 日金曜</p> <p>11 時 30 分頃</p> <p>兵庫県内在住</p> <p>41 歳 男性</p> <p>【正義感から】</p>	<p>岩場最先端で海を眺めていた男性に声を掛け相談所で話を聴いたところ「市役所で障害者福祉に関する仕事を 8 歳年上の男性と二人でしている。その相手は要領が良く、長時間の職場離脱や居眠りの常習者。上司に公務員による職務専念義務違反のため処分を訴えても動かず、懲戒処分を総務課に訴えたら貴方の行為は公益通報制度で保護されますがその事を他人に漏らすと貴方が処罰されると言われ、相手の態度が変わらないためスパナーで叩き殺す事も考えたが世間が騒ぐため自分がこの世から消えることを考え片道切符で自殺をしに来た」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・所持金ゼロで昼食を提供。</p> <p>・職場の係長、課長、所長に現状を説明し対策を要望したが月曜日に話し合うとの事。本人を納得させ交通費や食費を提供して JR 芦原温泉駅に送り 20 時 30 分帰省を確認。</p> <p>(茂・杉本)</p>



<p>(2023 年－9)</p> <p>6 月 18 日日曜</p> <p>17 時 50 分頃</p> <p>愛知県内在住</p> <p>13 歳女性</p> <p>(中学 2 年生)</p> <p>【学業不振】</p>	<p>岩場最先端に座り込み長時間携帯をいじっており、岩場で遊んでいた数組の観光客がその女性に声を掛けるも無視して携帯を続けていたため、平場まで戻って来た声をかけた観光客に彼女の様子を伺ったところ「声を掛けたが大丈夫と言いながら泣いていた」と教えられ、その後の行動を追尾したところ、商店街の駐車場に座り込み泣きながら携帯をしていたため川越女史の応援を求め二人で声をかけ相談所で話を聴いたところ「明日からテストがあり何も勉強をしていないため成績が悪く、親に叱られると思い死にたくなり自殺を考えて来た」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・長時間電話の相手は母親、電話を代って話したところ「明日学校は行きたくない。今までありがとう」と泣いて言うため自殺を考えていると保護を依頼され</p> <p>18 時 30 分地元警察に保護を依頼した。</p> <p>(茂・川越)</p>
<p>(2023 年－10)</p> <p>6 月 19 日月曜</p> <p>17 時 50 分頃</p> <p>愛知県内在住</p> <p>(中国籍・永住)</p> <p>18 歳 女性</p> <p>(大学 1 年)</p> <p>【学業不振】</p>	<p>岩場最先端に佇んでいたため自殺企図者と認め声を掛け相談所で話を聴いたところ「両親は外国人、私は日本生まれで両親の母国語は話せない。子どものころから両親から大学だけは卒業しなさいと強く言われ、高校時代は毎日塾通い、大学の専門学科に合格し入学したが勉強について行けず、奨学金 800 万円を借りる事になっており、母親に勉強がついていけないから退学したいと言っても許してくれず、奨学金の借金があるため自殺すると言ったが信じてくれず、自殺を決意して高速バスで本日正午頃に東尋坊に着き、自殺する場所を決めて考え事をしていた所を見付けられた」旨を語る自殺企図者だった。</p>	<p>・19 時頃両親に連絡したが遠方で足が悪く迎えに行けず保護して欲しいと言われホテルに宿泊。</p> <p>・翌日正午頃父親から自分は身体障害者で迎えに行けず、心配なので家まで送って欲しいと言われ川越女史と車で愛知県まで届けた。</p> <p>(千秋・田中)</p>
<p>(2023 年－11)</p> <p>6 月 24 日土曜</p> <p>晴れた日の</p> <p>16 時頃</p> <p>岐阜県内在住</p> <p>21 歳 女性</p> <p>【家庭・厭世】</p>	<p>海拔約 20m 以上ある岩場最先端に長時間座り込み海面を覗き込んでいたため声を掛けたところ、泣き顔で「放つといて下さい」と言うだけで動かず、危険な状態だったためショルダーバックを掴み強引に岩場から離して相談所で話を聴いたところ「家族に内緒でここまで来た。住所は言わない。自家用車で来ており無施錠の状態。製造会社に勤め 2 年前から精神病院に行き薬を貰っているが飲んでいない。両親は離婚 5 人兄弟の真ん中で、人生が嫌になり自殺をしに来た」と言う自殺企図者だった。</p>	<p>・約 2 時間岩場に居たと供述。約 1 時間の説得も住所は黙秘のため家族に継げられず自殺を考えて来た人を一人で帰らす訳にはいかず地元警察に引継ぎ、事後の措置を委ねた。</p> <p>(田中・裏)</p>
<p>(2023 年－12)</p> <p>6 月 24 日土曜</p> <p>16 時頃</p> <p>東京都内居住</p> <p>25 歳女性</p> <p>【多重債務・精神障害】</p>	<p>相談所の電話に「茂さんに会いたくて東京から片道切符手で三國駅まで来ました。助けて下さい」とのメッセージに、スタッフが駅まで迎えに行き相談所で話を聴いたところ「東京で 8 カ所の市民金融機関から約 300 万円の借金を作り、あり金全部を使い若し茂さんに会えなかったら東尋坊で飛び込み自殺をする事を考え 100 錠超の向精神薬を所持して東尋坊まで来た。</p> <p>両親とは 2 年程前に約 200 万円の借金をした時、後始末をして貰い、二度と後始末はしないとわれ、今後借金をしたら親子の縁を切ると言われているため助けは求められず、自己破産や生活保護、障害者年金の請求手続きも全て不発になって、もう死ぬしかありません」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・所持金がゼロのため緊急避難 201 号室で保護。</p> <p>・父親は九州で医師をしており、借金返済の支援要請には「多忙だが 6 月 29 日に借財の清算に東京へ出向くので一人で帰らせて下さい」と言われ本人も承諾。</p> <p>・6 月 26 日の 9 時に JR 福井駅へ送る。</p> <p>(茂・川越)</p>

<p>(2023 年－13)</p> <p>6 月 29 日木曜</p> <p>15 時 30 分頃</p> <p>埼玉県内居住</p> <p>29 歳 男性</p> <p>【強度精神障害】</p>	<p>通称大池と呼ばれている海拔 25mある岸壁の最先端で両足を海に向けてブラブラさせながら座り込んでいたため自殺をするパフォーマンスをしているのではと考え、背後から背負っていたリュックサックを両手で掴み岸壁の平場まで引き寄せて話を聴いたところ「埼玉県から自殺をしに来た」と言うため相談所で話を聞いたものの「住所・氏名は言えない。所持金は千円しか無い。昼食は食べていない。10 代の時に精神障害が発覚し中学も殆ど行っていない。両親は僕の事で離婚、今何処に住んでいるか不明。現在生活保護と障害者年金で生活しているがお金が無くなったためネットで自殺の名所を探して自殺をしに来た。</p> <p>しかし自殺をしに来た事がバレるとまた精神病院に強制入院させられるため名前は言えない」と言い、自殺企図者と認めたため 16 時 30 分頃地元の警察に保護を依頼した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺の為に来たこと以外、自分の身上は黙秘。 ・昼食は食べていないと言うため食事を提供。 ・現在精神病院に通院し服薬中、薬は持っていると言うが呈示を拒否。 ・自殺願望が強く、身内に対する通報も強く拒否したため坂井西警察に通報しその後の措置を委ねた。 <p>(茂)</p>
<p>(2023 年－14)</p> <p>7 月 4 日火曜</p> <p>14 時 40 分頃</p> <p>愛知県内居住</p> <p>19 歳 男性</p> <p>【失恋】</p>	<p>東京在住の大学 2 年生の女性から「現在交際中の愛知県に住む 19 歳・男性が東尋坊で自殺するとメールがきたため食い止めて欲しい」旨の電話があり捜査していたら 18 時 20 分頃、通称大池と呼ばれている岸壁の最先端で長時間座り込み佇んでいたため声を掛け説得して相談所で話を聴いたところ「彼女に振られた。生きていく望みが無くなった。現在通信大学生で特定成人であるため詳しい事は話したくない」と言う。身上について話さないため自殺企図者と認め納得させ、現場で警察に引き継いだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・持っていたショルダーバックの中身の説明は拒否。 ・所持金は 1 万円以上ある事を見せてくれた。 ・自殺する事を連呼するため警察に通報した。 <p>(茂・千秋)</p>
<p>(2023 年－15)</p> <p>7 月 7 日金曜</p> <p>15 時 30 分頃</p> <p>神奈川県内居住</p> <p>35 歳 男性</p> <p>【パニック障害】</p>	<p>気温 35℃の炎天下で東尋坊の雄島が望める公園の石畳み場所の階段に座っていた人が肌の出ている部分は日焼けで赤く腫れあがり熱中症寸前と認め、泣き顔になっていたため「大丈夫ですか」と声をかけたところ急に泣き出し「もう、どうしようも無い」としがみついて来たため相談所で話を聴いたところ「警備会社に勤め大きな会社の門番をしており、入荷商品の受け取りなどの仕事をしていたが予てからのパニック障害を発症、体が動かなくなり多くのミスを起こしてしまい、これ以上上司に迷惑を掛ける訳にはいかないと考え、東尋坊で自殺するため午前 4 時頃家を出て JR に乗り継ぎ 11 時頃東尋坊に着き炎天下の中、岩場を見て歩いたが観光客が多いため飛び込めず日没後に飛び込もうと考えていた所で声を掛けられた」と語る自殺企図者だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症の症状で昼食もまだと言うのでジュースなどを提供。 ・無断欠勤で来たため勤務先に無事を連絡。 ・九州に住む両親に連絡したところ元気が出て福井市内のホテルを案内してやって欲しいと依頼されホテルを紹介、翌日家族が自家用車で迎えに来て引き渡す。 <p>(田中)</p>
		

<p>(2023 年－16)</p> <p>7 月 7 日金曜</p> <p>17 時 35 分頃</p> <p>福井県内居住</p> <p>30 歳 女性</p> <p>【統合失調症】</p>	<p>気温 35℃以上ある炎天下で、岩場の最先端に座り込み海底を覗き込んでいたため自殺企図者と認め声を掛け、相談所で話を聴いたところ「16 歳の時から幻覚・幻聴が強く統合失調症と診断され精神病院への入退院を繰り返している。現在 A 型の福祉事業所で働いているが、最近はやる気が起きず、集中力が無い陰性状態となり毎日が苦しい。今回は自殺しなさいとの幻聴により東尋坊に来て、自殺するために岩場で休んで居たところを見付けられてしまった」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・ 3 年前まで家族の仕事関係で東京に住む。福井は高層ビルが無く自殺は出来ず東尋坊の岩場は低くて飛び込めないと言うので、自殺をしない約束と家族の承諾を得て帰宅。</p> <p>(千秋・田中)</p>
<p>(2023 年－17)</p> <p>7 月 15 日土曜</p> <p>京都府内居住</p> <p>14 時頃</p> <p>75 歳 女性</p> <p>【生活苦・厭世】</p>	<p>気温 35℃以上の真夏日、突然飲食店（相談所）に息を切らし、白い布に包まれた 10 cm 四方の小物をテーブル上に置き「少し休ませて下さい」と言うので冷水を提供して話を聴いたところ「実は、現在京都市の生活保護を受けて生活しているが 39,000 円の家賃や携帯電話代の支払いが滞り生活が出来なくなった。身内や頼れる人は誰もおらず、今日は 11 年前に他界した主人の遺骨を持って主人の所へ行くつもりで来ました。主人とは元気な時東尋坊や三国競艇場へよく来た懐かしい所であり、観光客が途切れたらあの世へ行きます」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・ 所持金は 716,620 円。頼る所が無く緊急避難所で保護。結婚歴 3 回、二回目の旦那との仲で現在 50 歳になる精神障害者の施設に入所中。</p> <p>・ 翌日の 14 時 JR あわら温泉駅から帰省。</p> <p>(杉本・川越)</p>
<p>(2023 年－18)</p> <p>8 月 10 日木曜</p> <p>17 時頃</p> <p>大阪府内居住</p> <p>21 歳 男性</p> <p>【失恋】</p>	<p>気温 38℃の真夏日、松林の木陰で太陽光による赤ら顔で座り込んでいたため自殺企図者と認め声を掛けたところ「結婚を前提に交際していた 1 歳年上の女性が他の男性と付き合っていることが判り折檻した事から別れ話になり警察沙汰となったことから将来が見えず、この世から消えるため自殺をしに来た」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・ 自家用車で来所、所持金 3,000 円。本人の要望で彼女に電話したが音信不通。</p> <p>・ 人生標語集命の防波堤の図書 3 冊を提供し帰省させた。(茂・高鳥)</p>
<p>(2023 年－19)</p> <p>8 月 13 日日曜</p> <p>16 時頃</p> <p>大阪府内居住</p> <p>51 歳 男性</p> <p>【借金・就職難】</p>	<p>気温 35℃の真夏日、東尋坊の松林内にある長椅子に両足を伸ばし太陽光で赤ら顔になり一人で休んでいたため自殺企図者と認め声を掛けたところ「大阪で 1 年半就活したが納得する仕事に就けず借金も 200 万円位に膨れ上がり、42,000 円の家賃も 2 ヶ月滞納、携帯の代金も払えず今月で止まる。頼れる身内が居ないことから 2 ヶ月前に預金が底をついたら自転車で最後の思い出として東尋坊に行つて自殺する事を決意し 8 月 9 日に大阪を出て今日の 15 時頃東尋坊に着き岩場を一巡、飛び込む場所が見付かったが観光客が多いため日没後に飛び込むと決め、ベンチで休んでいたら見つかった」と語る所持金 8 円の自殺企図者だった。</p>	<p>・ 元暴力団の父親は自分が 18 歳の時に他界、母は父の酒癖に耐えられず離婚、妹は中学 2 年の時に父の暴力で家出後行方不明。</p> <p>・ 大阪の警備会社で 8 年間働き 3 年前に脳出血を発症し退職した後は無職。再起を約束したため緊急避難所 201 号室で保護。(森岡)</p>
<p>(2023 年－20)</p> <p>8 月 21 日月曜</p> <p>15 時 25 分頃</p> <p>栃木県在住</p> <p>49 歳 女性</p> <p>【離婚訴訟中】</p>	<p>気温 35℃を上回る猛暑日、海が見渡せる芝生の公園内に座り込み海を眺めていたため自殺企図者と認めて声を掛けたところ「自殺を考えて来ました」と語るため説得し相談所で話を聴いたところ「公務員の妻で二人の子供にも嫌われ、一人暮らしで離婚訴訟中。夫の無理解から私が夫に暴力を振るう様になり夫と長男が家を出て長女の大学生も別居。私は今年の 7 月頃私が夫に暴力を振るったことでうつ病と診断され約 1 ヶ月間精神病院に措置</p>	<p>・ 本人の実の両親や兄弟に電話したところ「保護して欲しくなかった。本人の好きなようにしてくれ」と突き放されたが説得、地元の警察に保護を依頼するため引き取りに来るよう説明。</p>

	入院。現在も在宅での投薬治療中で私の実の両親や兄弟にも嫌われ夫から『お前は毒親だ』と罵られ1週間前に自殺を決意。本日5時頃家を出て正午頃に東尋坊に着き、飛び込む場所を見付けたが観光客が多いため日没を待っての自殺を考えていた所に声を掛けられた」と語る自殺企図者だった。	・18時頃坂井西警察署に引き継いだ。 (千秋)
(2023年ー21) 8月25日金曜 15時15分頃 岐阜県内居住 42歳 男性 【借金苦】	気温35℃を上回る猛暑日、松林内のコンクリート柵に腰掛けて海を眺めていたため自殺企図者と認め声を掛けたところ「自殺しに来ました」と語るため相談所で話を聴いたところ「現在土木建築の仕事をしているが、多くの借金を抱えてしまい親方にも迷惑をかけている。生活費もなくなったため東尋坊で自殺する事を考え昨日5時30分頃無断欠勤し自転車で野宿しながら福井県内に入り、本日12時30分頃東尋坊に着き、自殺する場所を見付けたものの観光客が多いため飛び込めず、日没を待って飛び込むために休んでいた所でした。私は4年前に約3,000万円を借金して家を建てたが妻と離婚、子ども3人は妻が引き取り清算。離婚後ヤケクソになり、サラ金や個人から合計約150万円を借金、住宅ローンの残額も約1,900万円で生活が出来ず、司法書士さんに財務整理をお願いしたら借金が残るとの結論に達し、日銭も無くなり自殺しかないと考えていた時に声を掛けられた」と語る所持金200円の自殺企図者だった。	・両親は他界、兄弟おらず親戚とは疎遠。 ・職場の親方には既に借金2回清算して貰っておりこれ以上は頼れない。 ・再出発が出来るならもう一度真面目に生活して働きたいとのことで緊急避難所に保護。 ・住み込みでの就職先を探す事で、自己破産後の再起に法テラスの弁護士を紹介決定までシェルターで就活する事にした。 (千秋)
(2023年ー22) 8月31日木曜 14時25分頃 東京都内居住 22歳 男性 【適応障害鬱病】	気温35℃を上回る猛暑日の海拔約25mある通称大池の岸壁最先端に座り込み海底を覗き込んでいたため自殺寸前と認め襟首を掴み平場に引き寄せたところ「死なせてくれ」と叫び、説得して相談所で話を聴いたところ「宮城県出身だが人との付き合いが嫌で高校卒業後東京都内の鉄工所に就職したが鬱病や適応障害で精神病院に入院したが治癒せず、1年半の傷病手当を受けた後2年間生活保護を受けての生活。しかし病気が治らず人生が嫌になり、自殺するために昨夜静岡県内の山中で所携のタオルで首を吊ったが死にきれず約5時間失神した後、横浜に行き東尋坊へは本日の14時頃に着き飛び込む場所を見付けたため飛び込む寸前に声を掛けられた」と語る左手首をリストカットしている自殺企図者だった。	・刃渡り約10cmの包丁を所持、手首のリストカット跡と首吊り時の傷跡が認められた。 ・精神薬や運転免許証は山中に捨て、所持金は27,886円我々の問い掛けには口が重い。 ・首や手首に傷があり、精神不安定のため警察に通報し保護を依頼。 (森岡・高鳥・長谷川)
(2023年ー23) 9月3日月曜 正午頃 岐阜県内居住 48歳 男性 【借金苦】	気温35℃を記録する猛暑日、ケージにシャム猫一匹を入れ食事に来て三人前の餅を完食する大食家の話で「猫と二人暮らしで13年間介護施設の介護士として働いている。昨年暮れに広域的な投資詐欺に合い200万円の借金を抱え任意整理をしたが借金だけが残り生活が出来なくなった。天涯孤独の身であることから昨年猫と共に東尋坊で自殺をする事を計画、今日岩場に立ったが観光客が多く、猫が何故か騒ぎ出し飛び込めなかったため預かって貰い日没に飛び込むつもり」と語る自殺企図者だった。	・生後二年の雌猫。警視庁に詐欺被害届を出し、広域詐欺集団の被害者と判明。 ・母親の面倒を弟が見ている貧困者で約1時間のカウンセリングで元気を取り戻し帰省させた。 (茂・川越)

<p>(2023 年—24)</p> <p>9 月 15 日金曜</p> <p>11 時 30 分頃</p> <p>京都府内居住</p> <p>19 歳 男性</p> <p>【学業不振鬱病】</p>	<p>松林内の遊歩道で、一人で佇んでいたため自殺企図者と認め声を掛けるところ急に沈み涙ぐんだため相談所に来て貰い話を聴いたところ「現在医大の 2 回生だが、勉強について行けず仲間外れになり解剖の勉強ができなくなった。授業は班編成で行っており仲間外れになった本年 7 月と 9 月の 2 回精神病院で診察を受けたがこの世では間に合わない人間と思うようになりこの世から消えたく毎日悶々としていた。今日は将来が見えなくなり自殺を決意、7 時頃家を出て 10 時頃東尋坊に着き、飛び込む岩場に立ったが怖くなり、今後どうしようと迷いつつ遊歩道を歩いていた時に声を掛けられた」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・本人が希望して某国立大学医学部に入学、両親は開業医。</p> <p>・両親に電話で事情を説明したところ大丈夫だから一人で帰らせて欲しいと言われたため 15 時 15 分 JR あわら温泉駅まで送り帰省させた。（森岡）</p>
<p>(2023 年—25)</p> <p>9 月 19 日火曜</p> <p>12 時 20 分頃</p> <p>神奈川県内居住</p> <p>35 歳 男性</p> <p>【鬱病・労災】</p>	<p>店で蕎麦を注文、食事後に「何か悩んでいるみたいですが何がありました」と話しかけたところ、顔を赤らめ泣き顔になったため自殺企図者と認め話を続けたところ「国立大学を卒業し IT 関係会社で年間約 600 万円の給料を貰って約 9 年間勤めた会社で過重労働に会い、鬱病を発症し傷病手当を貰って休職後退職して別の IT 関係会社に就職し現在 1 年半になるが片思いのアイドル歌手がおり、父親から約 150 万円借金してその女性を追いかけ、その女性に心を打ち明けたところ『心の弱い人は嫌いです』と断られたことから人生が嫌になり、昨日会社を無断欠勤して自殺するため 20 時頃に東尋坊に着いたが暗くて岩場が見えずホテルに泊まり、本日 10 時頃に再び東尋坊の岩場に立ったが観光客が多く日没になってから飛び込む事を決意、時間待ちで飲食の店に入った」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・本人は某国立大学卒で幼少時からアトピー性皮膚炎と鬱病で悩む。</p> <p>・ゲームソフトを作る IT 関係の仕事も人間関係の構築が苦手、一人息子の身から両親の期待も厚く心の重荷になっていた。</p> <p>・家族から電話で「好きな事をしなさい」と言われ、心を癒すため緊急避難所で保護した。</p> <p>（ 茂・森岡・川越）</p>
<p>(2023 年—26)</p> <p>10 月 15 日日曜</p> <p>15 時 50 分頃</p> <p>福井県内居住</p> <p>43 歳 女性</p> <p>【厭世】</p>	<p>飲食後も長時間席を立たないため悩み事があると考え話しかけたら急に泣き出し、気持ちを落ち着かせて話を聴いたところ「20 代から鬱病で現在精神病院から 6 錠の薬を貰い自宅療養中。先月まで「A 型」事業所で働き月 12 万円位の給料を貰っていたが同僚と仲たがひ、両親の承諾を得て退職。現在は無給で親からの小遣いで生活は出来ないと考え 9 時頃自家用車で家を出て県内をぶらつき 14 時 30 分頃東尋坊に到着、飛び込む岩場に立ったが怖くなり飛び込めなかった」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・幼少時から閉じ籠りが続き現在メガネ製造所で働くが生き甲斐を感じず既に 3 回の自殺未遂をしている。親に頼らず生活保護の受給手続きを説明し帰宅させた。（ 茂・川越 ）</p>
<p>(2023 年—27)</p> <p>10 月 27 日金曜</p> <p>26 日 22 時頃</p> <p>栃木県内居住</p> <p>45 歳 男性</p> <p>【厭世・鬱病】</p>	<p>電話で「3 年前に東尋坊で自殺未遂を助けてもらい約 3 週間居候させて貰った者です。あの時、両親が迎えに来て実家に戻り両親と弟の 4 人で暮らしています。自宅に帰り飲食店で調理師として働いたが人間関係が苦手のため一年で辞めその後無職の状態で実家の離れで暮らしています。両親は小遣い銭もくれず、働く意欲も湧かないため人生が嫌になり栃木県にある自殺の名所である六法沢の橋から飛び降りを試みましたが 3 年前に助けてもらった NPO さんの事を思い出し飛び込めなかった。もう一度助けて欲しい」と言うため、両親の承諾があれば面倒見ても良いと</p>	<p>・本人曰く、自家用車で下道を 12 時間かけて来た。</p> <p>・所持金は無く、暫く生活をさせて欲しいと言うため生活費を提供し「こころに響くおろしもち」店にあるシェルターで当分保護することにした。（ 茂・川越 ）</p>

	<p>言っておいたところ、本日の 11 時頃東尋坊の活動拠点まで来て助けを求める自殺企図者だった。</p>	
<p>(2023 年－28)</p> <p>10 月 31 日火曜</p> <p>30 日の 17 時頃</p> <p>31 日の 17 時頃</p> <p>神奈川県出身</p> <p>35 歳 男性</p> <p>【鬱病】</p>	<p>30 日の 17 時頃の薄暮時、雄島を見渡せる遊歩道脇のベンチに一人で休んでいたため自殺企図者と認め声を掛けたが「本年 6 月頃から敦賀市内の土建会社で土工として働いているが今日は社長と喧嘩し辞めるつもりで無断欠勤、気持ちの整理に来たのであり自殺をしに来たのではない」と言い、これ以上の会話を拒否するため坂井西警察署に参考通報して別れた。</p> <p>ところが本日 17 時頃の薄暮時、同じ場所をパトロールするとベンチに前日の男が座り込み、寒い日で体と手を震わせ飲みかけたビールの缶と風邪薬の瓶が置いてあり疲れている様子のため声を掛けたが「昨夜は一睡もしておらず動けない」と言うので相談所まで来るよう誘っても拒否するため坂井西警察署に自殺の恐れがある行旅病人と認めて通報、現場で警察に引き継いだ。</p>	<p>・大きなボストンバックの中身は洋服などの生活用品との事。</p> <p>・横浜出身で両親は他界し、弟は疎遠で不明。鬱病で今までに自殺未遂を 3 回程した。自殺の仕方を知っており、このまま放つといってくれ、と言うものの病人と認め、本人を説得して警察に通報した。</p> <p>(茂・杉本)</p>
<p>(2023 年－29)</p> <p>11 月 7 日月曜</p> <p>15 時 50 分頃、</p> <p>東京都内居住</p> <p>54 歳 女性</p> <p>【アル中・厭世】</p>	<p>カニ漁の解禁日が暴風のため漁業禁止となり一日中波しぶきが東尋坊の岸壁上まで打ち上がる荒れた日に、岩場最先端に立ち崖下を覗き込んでいたため自殺企図者と認め声を掛けて相談所で話を聞いたところ「東京都内で 6 人の美容師とネーリスト師 6 人を擁した美容室を経営していたが、本年 3 月ごろからアル中になり朝からアルコールが欲しくなり手が震える様になり仕事が出来なくなった。更に従業員に売上金を持ち逃げされる被害が続発して店を閉じ、一日中酒浸りの生活になった。これ以上夫に迷惑をかけたく無いと一ヶ月前に 800 万円の生命保険を掛け、東尋坊が荒れている日に『事故死』に見せかけた自殺を決意、今日は東尋坊が荒れていることを知りサンダルに履き替えて岩場に立った所を見付けられた」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・大きなボストンバックを二個所持。6 月 29 日に家出、関東・関西のホテルを泊まり歩き昨日東尋坊を下見。</p> <p>・事故死に見せかけるためサンダルを購入して履き替え海が荒れていたため自殺を決意。家族の所在を黙秘するため警察に保護を依頼したところ夫から捜索依頼が出されている事が判明。</p> <p>(千秋・吉川)</p>
<p>(2023 年－30)</p> <p>11 月 9 日木曜</p> <p>11 時 30 分頃</p> <p>愛知県内居住</p> <p>81 歳 男性</p> <p>【生活困窮】</p>	<p>雄島が見渡せる人通りの少ない遊歩道の草むらに隠れるように入っていくところを見付け、自殺企図者と認めて捜索したところ松の木の裏に隠れていた男性を見付けて声を掛け、相談所で話を聞いたところ「15 年前から心臓病のため働けなくなり生活保護での生活が、最近パチンコに嵌り 11 月分の家賃まで使い込み生活が出来なくて福祉課に借金をお願いしたが叶わず、自殺を考え交通費が無いため 11 月 1 日に愛知県を自転車で出発、今日の 8 時 30 分頃東尋坊に到着、飛び込む場所を探したが観光客がおり、人気の無い所を探していた所人影が見えたので草むらに隠れたが見つかってしまった」と語る所持金ゼロの自殺企図者。</p>	<p>・所持品は衣類が入ったボストンバックと大家さん宛の「後始末を頼む」の遺書。</p> <p>・生活保護の担当者に生活保護の継続承諾を得て本人が再起を約束したため生活費と交通費を提供し JR 芦原温泉駅から電車で帰省 18 時頃帰省を確認。</p> <p>(森岡・小島)</p>
<p>(2023 年－31)</p> <p>11 月 12 日日曜</p> <p>16 時頃</p> <p>滋賀県内居住</p>	<p>北海道で今年の初雪報道があり、東尋坊も寒気が吹き込む寒い日の相談所で、16 時頃お餅の注文を受けたものの飲食せず泣き顔になっていたことから自殺企図者と認め臨時休業の看板を掲げ、話を聞いたところ「国立大学・大学院の二回生で、卒論が書</p>	<p>・埼玉県の家族に連絡。下着などの荷物が一週間前に届き、電話も不通で不思議に思っていた。</p>

<p>24 歳 男性</p> <p>【学業不振】</p>	<p>けなくなり卒業の目途が立たないため就職ができなくなった。家には高校二年の弟が大学を目指しており、自分が浪人すると経費が掛かり弟にまで迷惑が掛かると考え自殺を決意して東尋坊の岩場に立ったものの海が荒れており、怖くなり飛び込みが出来なくなって時間待ちのため飲食に来た」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・本人と母親の話しで学費は貯えがある。車で迎えに来ることでホテルに一泊後家族に引渡した。</p> <p>(川越・米澤)</p>
<p>(2023 年－32)</p> <p>11 月 19 日日曜</p> <p>14 時 30 分頃</p> <p>福井県内居住</p> <p>41 歳 女性</p> <p>【統合失調症】</p>	<p>台風並みの寒い強風が吹き上げる気温 15℃の晴れた日、雄島が見渡せる公園のベンチに沈んだ様子で休んでいたため自殺企図者と認めて声を掛け相談所で話を聴いたところ「6 ヶ月前から幻覚・幻聴が強くなり、寝不足が続いて仕事にも行けなくなり、職場の人間関係が構築できないため母に退職したい旨を言っても承諾してくれないため毎日自殺する事ばかりを考える様になり、今日は自殺を決意して 11 時頃に東尋坊の岩場に立ったものの海が荒れていたため怖くなり、どうすべきかを考えていた所で、携帯電話は本日家族宛に郵送した」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・母親と弟の三人家族、母親の話しでは、日頃から自殺を口走り、今日は突然 8 時頃家を飛び出したため自殺を考え警察に家出届を出し、18 時頃家族が迎えに来て警察に手配解除を告げ身柄を引き取った。</p> <p>(森岡・米澤)</p>
<p>(2023 年－33)</p> <p>11 月 28 日火曜</p> <p>13 時 15 分頃</p> <p>福井県内居住</p> <p>19 歳 女性</p> <p>【ADHD・鬱病】</p>	<p>台風並みの強風が吹き荒れる日、観光客も少ない昼下がり相談所前を行き来する姿を発見、声を掛け相談所へ招き入れ話を聴いたところ「現在京都市内にある芸術大学の一回生であるが、昨年 10 月頃から勉強が身に入らず何をしてもやる気が起きず、この世から消えたく成り、リストカットや精神科医で貰った薬を大量に飲んだりして昨年医科大の精神科に措置入院させられた。このままだとまた精神病院に入れられるおそれがあることから自殺を考えて岩場に立ったが、今日は海が荒れて飛び込めず、どうすべきかを考えながら歩いていた所に声を掛けられた」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・所持金は 1 万円以上、風俗で働き、買い物依存症状状態。現在母親の承諾を得て福井市内で大学生と同棲生活を送り、自殺願望が判ると無理に入院させられるのが嫌。</p> <p>・同棲相手に連絡、福井市内まで送り届けた。</p> <p>(森岡・川越)</p>
<p>(2023 年－34)</p> <p>11 月 30 日木曜</p> <p>16 時 30 分頃</p> <p>兵庫県内居住</p> <p>21 歳 男性</p> <p>【パニック障害】</p>	<p>寒くて小雨降る薄暮時、観光客も殆どいない海拔約 25m の通称大池岸壁最先端に佇み、ずぶ濡れになって海を覗き込んでいたため自殺企図者と認め声を掛け相談所で話を聴いたところ「広場恐怖症のパニック障害と診断されている。高校生の時から精神病院へ行っても治癒せず、この病気について特に父親は理解してくれず、姉や兄、妹がいるが誰も自分の事を理解しようとしないうえに死んで生まれ変わりたいと考え自殺しに来ました」と語る自殺企図者だった。</p>	<p>・母親に電話したところ家出した翌日の火曜日に自殺する恐れがあるため警察に家出届を出した。</p> <p>・迎えに行くから地元の警察に通報の依頼を受け地元警察に 17 時 30 分引渡す。</p> <p>(川越・千秋)</p>
<p>(2023 年－35)</p> <p>12 月 10 日日曜</p> <p>15 時 10 分頃</p> <p>石川県内居住</p> <p>26 歳 男性</p>	<p>久しぶりに晴れた日の観光客も多い昼下がり、雄島を望む公園内のベンチで休んでいたため話しかけたところ、人生が嫌になったと言うため相談所まで来て貰い話を聴いたところ「3 歳年上の兄は介護の仕事をしていたが鬱病になり実家で閉じ籠り生活。自分は電車の整備士で彼女が出来ず出会い系サイトや婚活で数十名の女性にアタックしたものの全てダメ。半月前に知り合った同い年の彼女は 19 歳の時から二回も中絶している可哀想な女性であったことから僕が守ってやりたいと思い結婚を申し込みディ</p>	<p>・半年前に寝不足が続き人に勧められて心療内科医へ行って鬱病と言われ薬を貰ったが効果がなく飲んでいない。兄も鬱病で家系の血筋だと悲観。</p> <p>・18 時迄カウンセリングを行い、出版本を提供。自殺</p>

【失恋】	トの約束も無視され、最近知り合ったLGBTの女性が好きだと言われてしまい、また振られたと思ったことからこの辺で人生を閉じようと考え東尋坊へ来た」と語る自殺企図者だった。	はしないことの約束を取り付け自家用車で帰らせた。 ・12月12日13時、本人から、「彼女と仲直りしたため近々遊びに行っても良いか」と入電あり。(千秋)
------	--	--

NPO 法人 心に響く文集・編集局の設立は 2004 年 4 月～20 年間の自死企図者遭遇累計は 818 人	
茂さんたちが 救済した自死企図者数は：1 年 平均 40.9 人：1 月 平均 3.4 人：毎週 0.85 人	
読み終えて あなた様の 感想と提言 をお聞かせください・・・以下、頂いたメッセージです。	
1. 全体的に、人間関係が薄い人達が多いと感じた。話を聞いてもらい、自死を思い止まり、方向転換ができるのならば、悩みを話し合える場所があり、相談する人が身近にいたら・・・と思う。	
2. 今の職場では、「他人のプライベートのことを聞くのはよくない・・・かな」と思ってしまう。	
3. 親として、子どもには「期待して、ハッパをかけてしまう・・・」その加減が難しいと思った。	
4. 自殺企画者が多いこと。理由も人それぞれで、いつ誰がなってもおかしくない状況であること。私自身、自殺を考えるなんて、余程のことと思っていたが、話を聞いてくれる人、味方であってくれる人がいたりする環境づくりと配慮の心掛けが大切なことを思い知りました。	
5. 自殺を思い詰めた方が、茂さんたちに話を聞いてもらい、自殺を踏み止まることは、世に未練もあり再生の希望に向かって再チャレンジする・・・茂さんたちの活動を広めることに応援したい。	
6. 私も身内や友達・社内の人であれば話を聞きますが、名前も知らない方々の話を聞くことは想像できません。でも茂さんたちは、絶望の人によりそい話を聞く・・・尊敬の念しかありません。	
7. 普段の生活で「死と向き合うこと」は、ほぼ無いが日頃「悩むことでの不満や愚痴を」言う人に、改めて生と死と今後の自分やまわりの人生を考える資料として役立てたい。	
8. まずは、私の近い人たちに話を聞くうえで、辛いことへのケアから始めたいと思います。	
9. 以前に話を聞いてもらった茂さんと話がしたい。その人にとって辛いときに思い浮かぶ茂さんは神様・仏様だ。・・・単純にすごいことを 20 年も続けておられる・・・立派な方だと思いました。	

3 セーフティスマイル多文化共生活動

かみなかコーポ・瓜生コーポでは、高齢者・児童・外国人の方等の「セーフティスマイル多文化共生活動」に取り組んでいます。

高齢の方は「ＳＳサロン」、児童生徒は「子ども学習講座・中学生学習教室」、外国人の方は「日本語教室」を居場所として集い、暮らしに必要な知識の習得、学習、野菜栽培、ものづくり、調理等の活動、多文化共生活動を行っています。会話や行動を共にすることにより信頼関係が深まり、互いに認め合う体験を通して自己肯定感を高めます。

このような活動を通して、互いに役割を担いながら、誰もが健康で元気に働き・安心して暮らせる共生社会づくりを目指しています。



(1) 住民に働きかける「ＳＳサロン」(高齢者交流生きがい活動)

①活動の自立と外部への働きかけ

ＳＳ（スマイル・セーフティ）サロン活動は、コーポにお住いの75歳代以上の高齢者が中心メンバーで、今年度で6年目を迎えました。この6年間で、コーポに移住されてきた高齢者住民が加わり、年々活動意欲が高まっています。

今年度のＳＳサロン活動では活動内容と運営体制で大きな成果がありました。まず、活動面では、これまでは主に会員たちだけ（内部）の活動内容でしたが、徐々に会員外の人々に働きかける活動も行うようになってきました。次に運営面では、世話役がリードして活動を計画していましたが、今年度は、高齢者会員たちで活動内容を計画して実施するという運営スタイルとなり、自立したサロンとなりました。

また、昨年度から今年度にかけては、共に活動をしてきた会員と世話役の方々が入院したり、施設に入所したり、お亡くなりになったり等、辛い出来事が重なりました。会員は悲しみに途方に暮れる時期がありましたが、次第に亡くなった方々の意思を継いでいこうという気運が高まり活動を再開し、現在に至っています。

活動の一つである「わいあい菜園活動」は地域の農業者の支援を受けて再開し、収穫物で地域の皆さんに喜ばれ、薬膳料理食材としていろいろと使い道がある野菜類の栽培に取り組んでいます。

また、SDGs活動として関係者に配布する廃棄ホタテ貝殻を利用した安心安全「ホタテ焼成パウダー作り」や人々の幸せを祈願する「正月飾り作り」活動を行っています。
 今後も会員自らの力で活動資金を作り、交流生きがい活動を継続していきます。



じゃがいも
栽培



SDGs リサイクル安心安全 ホタテ貝殻焼成パウダー作り



SDGs 健康平和豊作幸せ祈願



「正月飾り」作り

②食を通して国際交流「わいあいサロンおいしい交流会」

毎年、自治会主催で行っている環境整備活動では、外国籍住民たちの真面目な働きぶりに住民が感心して声をかけたり、休憩時間に住民から外国籍の人に話しかけたりしてきました。部屋が近くで、顔を合やす機会が多い高齢者は、日頃、短い話をしたり挨拶したりしています。

また、数年前からは、高齢者が荷物を持って階段を登っている時に会った外国籍住民から「持ってあげましょう。」と声をかけられ、荷物を運んでもらい助かったという話を度々聞くようになりました。

このような経験から、サロン活動で作った食べ物でおもてなしをしようということになりSSサロンのメンバーが中心となって「おいしい交流会」を開催しました。

当日は、参加した外国籍の住民もベトナム料理やミャンマー料理、タイのお菓子の等を作って持ち寄り、にぎやかな「食の国際交流会」となりました。

みんなで食べたお料理は、日本料理の「たこ焼き」「おでん」「だし巻き卵」「きんぴらごぼう」「おにぎり」「梅干し」、ベトナム料理の「春巻き」、ミヤ

10/28 ミニ交流会のメニューは・・・



ンマー料理の「モヒンガー」、タイのお菓子の「とりのたまご」と、たくさんのメニューとなり、にぎやかに楽しい食の交流会となりました。参加者たちは食べながら、作り方や材料、どんな時に食べる等を聞いたり答えたりして、大いに会話が盛り上がりました。

高齢者の感謝の気持ちから生まれたこの会は、「食」を通した「国際文化交流会」となり、なお一層人間関係が深まるよい機会となりました。

③若狭町福祉課からも応援されるSSサロン活動に

SSサロンは、健康と生きがい、社会参加を目的とした「わいあい菜園」での野菜作りサークルとしてスタートしました。

そこから現在に至る活動について、資料提供や助言を受けてきた町役場福祉課から高く評価されています。

サロンにあつとおめがして
出かけよう。
人とおしゃべりすることで元気に
なれます。
6年後にお誘いあわせ 参加
下さい。 福祉課より

わいあいサークルのみなさまへ

みなさま お元気でいらっしゃいますか。
以前上中コーポに 4Fの教室で おじゃまして頂いた際に
みなさまで畑作りをされていたり、その野菜を使って、みなさま
お食事会をなさるともあつとお聞きし、とても素晴らしい活動
をされていると感動しました。他のサロンにはない活動で、
上中コーポさんならではの、だと思ふので、すごいことだと思ふ。
一緒に進めさせて頂いた文献にもありますように、みなさま
集って過ごすことで孤立を防ぐことは、いろいろは予防につは
かります。そしてより豊かな生活につはかっています。
ぜひこれからも、みなさまわいあい菜園はから集って下さいね。
若狭町役場 福祉課 係理師

かみなかコーポの高齢者のSS（スマイル・セーフティ）サロン活動は高齢者だけの「健康」「生きがい」「交流」活動に留まらず、児童や外国人の方を巻き込んだ「地域共生社会づくり」の推進役として外部に働きかける活動を行っています。

令和5(2023)年7月17日 第2217号

週刊 保健衛生ニュース

社会的孤立の高齢者で
死亡リスク1・9倍に
JAGES研究
社会的孤立の状況にある高
齢者はそうでない人に比べて、
3年後の死亡リスクが1・9
倍となり、認知症は1・6倍
多いことが、千葉大学予防医
学センター健康まちづくり共
同研究部門の中込敦士特任准
教授らの研究で明らかになつ
た。中込氏は「友人との交流
や社会参加の促進が、社会的
孤立による健康・ウェルビー
イングへの影響を軽減するた
めに有用かもしれない」とし
ている。

(2) 子どもの自立を支える「子ども学習講座」(子どもの居場所)

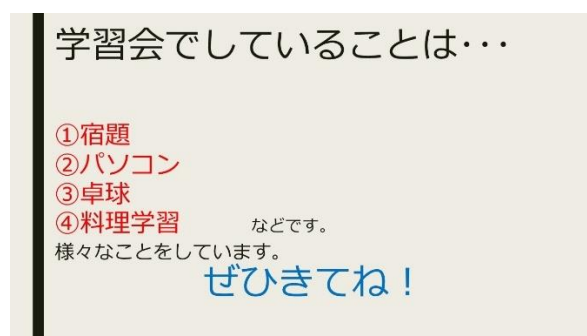
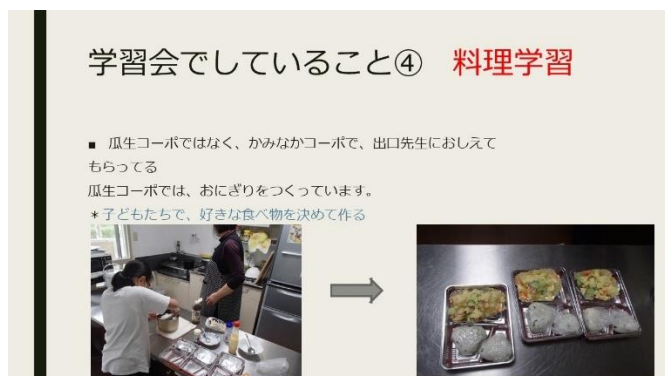
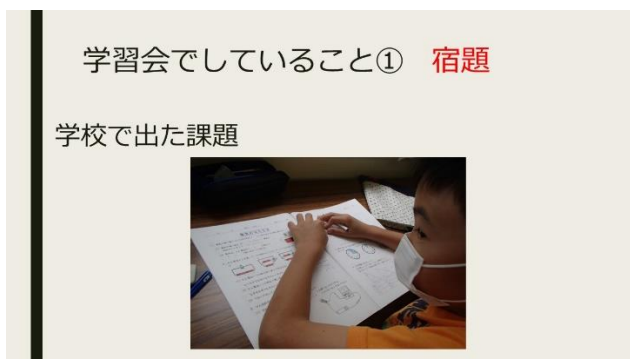
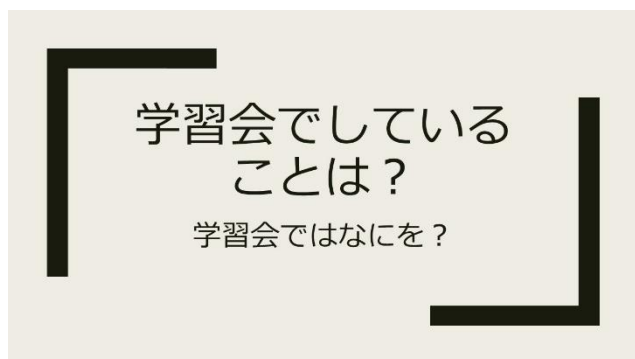
私たちは「子どもに自立する力を育てる」をテーマに6年間継続して「子どもの居場所・子どもが育つ場所」を開いてきました。

小学生には「小学生学習会」を週5日、平日の放課後(長期休業中は午前中)にコーポの集会所やサロン室で開催しています。内容は、主に学習支援と体験活動、スポーツ、食育と料理学習です。中学校に進んだ生徒には「中学生学習教室」を開き、英語と数学の学習塾を週に1回ずつ開いています。

① 「小学生子ども学習講座」

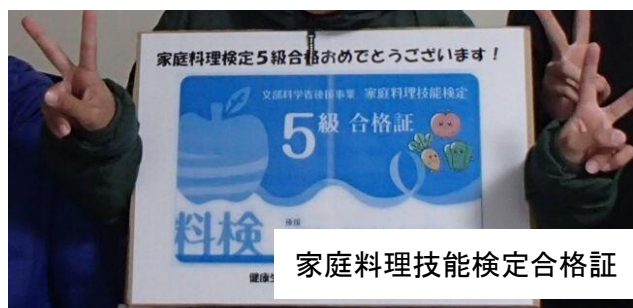
小学生学習講座は、児童が将来自立して生活していくための基礎を育てるため、「生活習慣を身に付ける学習支援」、「体験活動—学びたい意欲を育てる体験活動」、「スポーツを通した健康体力づくりと社会性育成」、「生涯にわたり生活と命を支える食育」を活動の柱として実施しています。

下記は、参加児童が製作した「参加者募集ポスター」です。ここには児童視点で子ども学習講座の活動が表現されています。



自立する力を育てるために、自分に役立ち、家族に喜ばれる技術や知識を身に付けることを大事にしています。その中心が「食育」料理学習です。この授業を通して学び身に付けた知識と技能を「家庭料理技能検定試験受験」を通して児童自らが確認し、自信と意欲をつけています。

家庭料理技能検定には、これまでに5級に5人、4級に3人が合格しています。



家庭料理技能検定合格証 ～目標達成・自信・意欲～

《小学生 学習講座参加児童・保護者の言葉》

【参加児童より】

私は子ども学習会を通してたくさんのことを経験できたり感じたりしました。例えば 夏休み 春休み 冬休みにスライム作り、陶芸体験でお皿やコップを作って、普段できないこともできたし、楽しかったのでもたしてみたいと思いました。(中略)

先生は勉強でわからないところがあったら 優しく丁寧に教えてくれました。よかったです。家ですると周りのものが気になり、家族の話し声でなかなか進まないけど、友達と同じ宿題だから協力してできました。

ホットケーキ作りで何回も何回も作ったら上手になりました。これも経験だなと思いました。料理教室でたくさんの料理を作りました。将来にも役立つ生活の中でも使えることだから毎回楽しみでした。それに料理に興味があるからこの学習会をこれからも続けて欲しいと思います。

【保護者より】

帰宅後は1人になるため学習会を開いていただきとても助かっています。学習面や料理いろいろな体験など、なかなか家庭では教えることのできないことを先生方に指導していただき大変嬉しく思っています。

教わったことを家で実際に料理してくれたり、教えてくれたりしています。本人は卓球が好きなので 集会所でできることが嬉しいようです。体を動かせることもとても良いことだと思っています。

また、夏休みなどは JR バスに乗って郷土学習に行ったそうで、皆で出かけて遠足気分が良い思い出になったようです。

季節に合わせて工夫や工作や風揚げなど色々な企画を考え楽しませてくださりありがとうございます。いつも子供の目線で接し、見守ってくださり、安心して預けることができます。感謝しています。ありがとうございます。

② 自己教育力を養う「中学生学習教室」

中学生は、思春期に入り心身ともに大きく成長する時期であり、高校進学という人生の大きな岐路に立つ時期であります。この時期は元中学・高校教師という経歴を持つ講師による「中学生学習教室」で自分にじっくりと向き合う時間を持ちました。

「指導の先生方のコメントとメッセージ」

生徒一人一人をよく理解して認め、生徒自ら育つ力を伸ばす姿勢が基本にあります。

《中学生学習教室 講師から生徒・保護者へのメッセージ》

【「自学自習」の学習教室を目指して 英語講師より】

週に一度、中高生の学力向上のための学習塾を開講しています。対象が中学生の場合、基本的には必要に応じた全員を対象とした短い授業や演習に加え、個別学習の教材として、教科書に準拠した問題プリントを準備します。生徒たちは一人ひとり自分のペースでそれを解き、私がマンツーマンで添削するという方法をとっています。しかし、決してこのやり方を強要はしません。大切なことは生徒一人ひとりが自ら学習課題を設定し、それに基づいて、この塾での2時間を有効に活用してくれることだと思っています。プリント演習はここでの過ごし方の選択肢の一つにすぎません。

この3月 中学3年生6名全員がここを巣立って高校に進学しました。熱心にプリントに取り組み 意欲的に質問してくれる生徒が多い中、マイペースの生徒もいました。プリントはほどほどにS君は2時間の大半を iPad を使って勉強していました。H君は他教科の勉強にも力を入れていました。もちろん これらも選択肢の一つです。

将来 生徒が社会人となり 何かを学習、習得しなければならない必要に迫られた時、自分で課題を設定し、学習していくことができる能力、自己教育力は単なる知識や学生時代の成績とは別次元の大切な能力としてその人の大きな 拠り所となってくれます。この塾での経験がたとえほんのわずかでも自己教育力の育成に資するものになることを目指していきます。



【高校に進学する中学生へのメッセージ 数学講師より】

K君へ

中学校 卒業 そして高校入学おめでとうございます。3年間で本当に大きくなりました。何度か「何かスポーツは？」と尋ねましたが、君の持ち味はその体です。

それが生かせる（活かせる）場所は必ずあります。タイミングも大事なので、出会いやチャンスを残さないように常にアンテナを張り巡らせておきましょう。

T君へ

中学校 卒業 そして高校入学おめでとうございます。新しい歩みを始める君。

君の持ち味はあまり周りに惑わされない（少なくとも私にはそう思われる）ところかな。他人のペースをあまり気にせず、自分のリズムで着実に成長してきています。体も大きくなり顔つきも青年に近づきました。

大丈夫です。自信を持って顔を上げて、今の歩みを続けてください。

《卒業生の保護者・中学卒業生・高校卒業生の言葉》

【感謝文 母親より】

感謝文

尊敬の中学生学習会のリーダーの皆様、時間过得
 好快，一转眼已经在这里住了5年了，我的孩
 子万帆金子翔太在中学生学習会的那段时间里
 的满心欢喜，开心快乐的笑容里看到了他对未来
 积极向上的心情。回到家里和我们之间的沟通
 也多了，还会时常和我们开玩笑。从翔太的眼神
 里看到了，感受到了中学生学習会给他带来的快
 乐，也给他为高校奠定了一定的基础，使得他
 这次能顺利地考上了筑波大学。作为家长真
 的从新里发自内心的感谢所有中学生学習会的
 各位领导老师以及同学们，谢谢你们对翔太一
 直以来的关心和帮助，使得我们的这个外国
 的孩子在日本能够和大家一起快乐的成长。
 長い間ほんとに大変お世話になりました。
 ありがとうございます。

(左記 中国語の翻訳文)

中学生学習会のリーダーの皆様こんにちは、時間が経つのは早いですね。ここに住んで5年もあっという間でした。我が子は中学生の学習中はとても楽しそうでした。

元気な笑顔からは将来への前向きな気持ちが伝わってきます。家に帰ってもコミュニケーションが増え、冗談もよく言います。我が子の目からは、勉強が社会人として大切であることがわかる中学生の気持ちが伝わってきます。喜びは高校教育を学ぶ一定の基礎を築けたことです。この度、無事若狭東高校に入学することができ、親として本当に嬉しかったです。

中学生学習会の指導者、先生方、クラスメートの皆様に心より感謝申し上げます。いつも我が子を心配し、助けてくださっている皆様、誠にありがとうございました。これにより、外国人の子供は日本の皆さんと一緒に幸せに成長することができました。

長い間ほんとに大変お世話になりました。ありがとうございました。

【関わりを通して 母親より】

このかみなかコーポに来た時は親子共に何もわからず、知っている人も少なく不安でした。

その中で学習会という居場所があり、とても子どもたちも安心してきて勉強・オリーブ栽培・旅行・調理学習と料理検定等たくさんの経験をさせてもらいました。

特にうちの子は 集会所を使わせてもらうことも多く、そのおかげで卓球では長男は3年間定時制で優勝でき、次男も県大会優勝等とても良い成績を残すことができました。とても感謝の気持ちでいっぱいです。2人のわがままな子が大変だったと思いますが、M先生、コーポの方々、関わってくださりありがとうございました。

長男はこれから専門学校へと進みますが、サポートしながら見守りたいと思います。

【今までの振り返って 中学校卒業生より】

最初に学習会に行ったのは小学生の頃でした。緊張していたけど最初の自己紹介の時のちょっとしたゲームのおかげで 少し緊張がほぐれました。その後は勉強も頑張りながら 友達関係も深めていきました。家庭料理技術検定の試験を受けた時にはD先生にすぐお世話になりました。瓜割の滝の英霊殿を掃除しました。大変だったけどやりがいがあり、その後にみんなと食べたご飯は最高に美味しかったです。

中学校に入ったら帰るのが遅くなって学習に全然行けなかったけど、帰ってくるとM先生やOさんが「おかえり」と言ってくれるのは嬉しかったです。卓球をする時も鍵を貸していただきありがとうございました。

【かみなかコーポを振り返って 高校卒業生より】

かみなかコーポでの活動を振り返ってみると、たくさんの思い出があります。その中でも高校受験前の学習会の勉強と集会所での卓球を練習したことが特に心に残っています

学習会は僕が小学生の時に始まった活動です。M先生がかみなかコーポと瓜生コーポの小中学生に自由に楽しく勉強を教えてくれていたのを覚えています。中学校に入学してからは部活動で忙しく行くことが減っていきました。

しかし、高校受験前にM先生に勉強を見てもらえることになり、学習会に再び行くことになりました。中学3年の時は学校へ行けず不登校になっていました。ですから学校での勉強も全くできていなくて受験に合格できるかと、とても不安でした。そんな中でも先生が優しく教えてくださり、合格することができました。とても感謝しています。

もう一つの思い出が集会所での卓球練習したことです。中学校の部活から卓球を始め、試合前になるとよく団地の友達や弟と練習したのを覚えています。高校では定時制で卓球を続けていたのですが、練習が試合前数回しかなく、なかなか満足いく練習ができませんでした。そんな時、集会所をお借りしてよく練習をさせてもらいました。そのおかげで定時制通信制の県大会で優勝し、全国大会にも出場することができました。これは、集会所で練習をして出せた成果だと思うので本当に感謝しています。

かみなかコーポでたくさんの体験ができてとても良い経験になりました。本当にありがとうございました。

<若狭ライオンズクラブ・若狭町スポーツ協会から表彰> ー北信越大会3位ー



小学校6年時と中学校3年時に不登校で学力に不安をもっていたT君は、子ども学習講座での調理体験から料理が好きになり、高校卒業後は調理師を目指して専門学校に進学を決めました。

彼は卓球により不登校を克服できました。出会いは、有限会社エスエス様から寄贈を受けた卓球台と練習用具類で始めた子ども学習講座のスポーツ活動でした。その後、中学校で卓球部に入り面白さを体験し、高校に入り練習を続けたいという強い気持ちで勉強に取り組み、不登校の不安を乗り越え、見事合格しました。

高校は定時制で部員数から活動に不利な環境でしたが、練習相手を求めて町の卓球クラブにも参加する等の努力を重ね、定時制通信制の県大会優勝・北信越大会3位・全国大会連続出場という見事な成果を上げ、町のスポーツ協会と若狭ライオンズクラブから表彰をされました。「自立を支える生活習慣」と「地域の大人たちの理解」があって、目標に向かって努力を続けることができました。

4月からも進学先の新たな地域で卓球の練習をしたいと話していました。

(3) 多文化共生活動（住民参加日本語、文化、交流研修会）

近年、かみなかコーポの住民に、工場や介護施設で働く外国からの労働者が増えています。この6年間で2倍になりました。

地域に外国人労働者が増えると地域の多様化という良い面もありますが、外国人を受け入れにくい日本の住民や社会に馴染めない外国人の問題もあります。

そこで、かみなかコーポでは、単に「外国人労働者」としてではなく、「共に地域に住む仲間」として迎え入れ、自治会や企業の理解と協力を得て、外国籍の方も地域住民も共に安心安全で心地よく住める団地づくりを目指して自治会活動や研修会、交流会、日本語教室を行っています。

具体的には、ごみの分別収集研修、草刈り機取扱い研修、自治会環境美化活動、小学校の地域交流会、住民との文化交流会、日本語教室、野菜作り等を行ってきました。

また、外国籍の方の希望で、日本人の考え方や生活文化を学ぶ体験や研修も行っています。同時に、外国の方からは母国の文化紹介もしていただき、互いの文化を尊重し合う関係を作っています。

① 住民参加多文化交流サロン活動 ―日本語、生活、情報、文化を学ぶ場として―



「困っている外国人住民の力になれば」、「外国の人と力を合わせて住みやすい住宅にできたら」という住民の気持ちと「日本語をもっとわかりたい」、「もっと日本の生活を知りたい」、「早く日本に慣れたい」という外国の人の気持ちから、多文化交流サロン活動では、「日本語教室」を行っています。日本にきて間もない外国人を中心に「気楽、楽しい、優しい」をモットーにし

て毎月4回程を開いています。

日本語がもっとわかるようになりたいという願いに応えることで、外国人と住民とのコミュニケーションがとれ、より良い関係づくりができます。そして、日本語能力試験 JLPT 合格を目指す人の勉強会にもなっています。

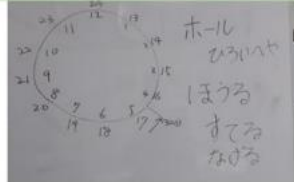
日本語の指導・支援にあたる人は、地域住民の退職教員と自治会役員で現在5人です。

内容は、「いろどり」という教材を使って日常生活に役立つ会話を中心とした学習と、日本語能力試験を目標とした学習、そして、ミニ日本文化体験、文化交流等を行っています。

参加者は熱心に学び、これまでに日本語能力試験 JLPT では、N5 級に4

人、N4 級に3人が合格しました。毎年7月と12月の試験を目標に学習を継続し、N2 やN1を目標にしている人も出てきました。

2/9, 18 日本語学習会「若狭地方の方言を知る」



2/21 日本語教室「ばたもち作りをする」



2/25 日本語教室「巻き寿司作りをする」



【多文化交流サロン参加者のアンケートより】

- ・日本語教室はとても良いです。その理由は日本語を学べるだけでなく、日本語教室を通して日本のことが何でもわかるようになるからです。これからもいつも通りでお願いします
- ・教室で日本語を勉強したので、日本語がよくわかるようになりました。日本語の他に 日本の食文化 生活文化など 学びます。ここにいる皆さんは素晴らしいです。これからは、新しい言葉や文法を学びたいです。また、N4とN3を取りたいです。頑張ります。よろしくお願いします。ありがとうございます。
- ・日本語教室の授業はとても楽しくて面白く、先生も熱心です。それに 日本文化についても学びます。本当にありがとうございます。これからは漢字を学びたいです。

【参加者の勤務先企業聞き取りアンケートより】

- ・分かりやすかった。日本語が早く覚えられる。
- ・楽しい、色んな国から来ている。
- ・日本語の試験が勉強になる。
- ・日本語が早く覚えられるが、日本語のレベルが低いと難しいかも。迷惑をかけてしまうのではと気になる。

【日本語の実力測定と仕事に活用できる「日本語能力試験」】

ー日本語教室参加者のN4・N3合格証ー



② 交流研修活動 ー楽しみ・生きがい・ふれあいのある住環境作りー

かみなかコーポでは、安心・安全・健康をテーマに「住民の憩いと交流」の場として、ハーブとオリーブを栽培しています。これまでに住民と共にオリーブ栽培の研修会を行い、毎年秋にオリーブの実を収穫し、食材として活用してきました。

秋には研修として、SSサロンメンバーと相談し、ハーブ栽培の研修会と世界遺産「比叡山延暦寺」見学を実施しました。

ハーブは、観賞用としてだけでなく、香りを楽しむ生活に取り入れ、ハーブティー等の健康食材として通年で様々な活用ができる植物です。今後、住民みんなで現在栽培しているハーブ栽培と活用にかかわり、新たなハーブ園作りを計画しています。

これら植物の栽培と活用を通して、住民が楽しみ、生きがい・ふれあいのある豊かな心の地域共生社会づくりを進めています。

交流研修活動 ～ハーブ研修と世界遺産見学～のご案内

「健康・生きがい・交流・理解・共生」をテーマに、①【ハーブの栽培・活用研修】と②【日本文化理解・世界遺産見学】の交流研修を行います。

皆様、ご参加ください。

記

令和5年11月26日(日) 8:20 かみなかコーポ駐車場に集合

光の穂ハーブ園(滋賀県栗東市)、比叡山延暦寺(大津市)

賞切バス(大型バス)

かみなかコーポ駐車場 出発(8:30) →

交流研修① 光の穂ハーブ園 研修と食事(10:30～13:15)

交流研修② 世界遺産 比叡山延暦寺(14:00～16:00)

→ かみなかコーポ駐車場 到着(18:00)

主催 一般社団法人健康生きがいサポート互助会

かみなかコーポわあいサロン

問合せ先 かみなかコーポ管理室 松宮 岡本



【研修会参加者の感想】

<外国籍住民>

- ・ハーブガーデン光の穂でご飯を食べました。そこで面白くて驚いたのは、日本でもタイと同じように様々な野菜（ハーブ）を使っている人がいることです。だいたい誰もがハーブを臭くて苦いと言っていたので。でも、ここではタイと同じような野菜（ハーブ）をたくさん使っています。これは驚きでした。その日食べたドリンクやデザートもあの野菜（ハーブ）で作っていました。とても興味深いです。ー略ー

今日よかったのは、知り合いも初対面の方も、みんなと話したりご飯を食べたりハーブを使った調味料づくり体験ができたことです。皆さん優しくてフレンドリーで、とても幸せでした。本当にありがとうございました。

- ・今日参加させていただきありがとうございました。東京に住んでいた時は、こういう交流のイベントがあまりなかったです。今日の研修旅行のおかげでかみなかコーポに住んでいる日本の方とベトナムの私たちの距離が短くなったと感じました。

今後、自分は自治会の力になれたらいいなと思っています。

<住民・自治会役員>

- ・これからの団地について、外国人、また、お年寄りも方も増えています。

互いに楽しく、明るく、気兼ねなく暮らせるように、皆が協力して家族のように暮らせるようになるのが望ましいと思います。また、そうなれるようであれば、惜しまず協力したいと考えます。

<日本語教室指導者>

- ・交流・研修が目的の研修会で、食事の時にベトナムの方とウズベキスタンの方が日本語で話し合っている様子を見て、いいなと思いました。また、NPOのねこやなぎ倶楽部の人たちが積極的に外国の人たちに話しかけてくださっていました。外国の人たちが日本語できちんと答えておられたのも印象に残りました。かみなかコーポの人も「ハーブを育ててみたい」と言われていて、楽しみができたと思いました。

【ハーブオイル】

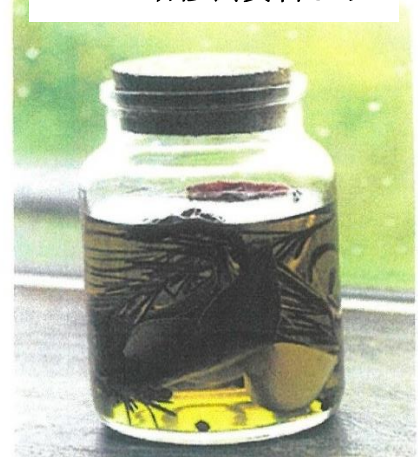
□材料

- ・オリーブオイルなどお好みの物 500cc
- ・A：ローリエ(ドライ) 2～3枚
ローズマリー(フレッシュ) 2～3枚
トウガラシ(ドライ) 2本
ニンニク 1片
粒コショウ 少々

□作りかた

- ① 容器をきれいに洗って熱湯をかけて消毒し、乾かしておく。
ローズマリーは洗っておく
- ② Aを容器に入れ、油を注ぎ入れる。
- ③ ふたをして暖かい場所におき、時々容器をふって全体が混ざるようにする。
- ④ 2～3週間して香りが出たら、洗って熱湯をかけて消毒し、乾かしておいた容器にこし入れる。

ハーブ研修会資料より



③ 地域交流会参加 ―地域の一員として国際交流・文化体験で地域貢献―

地域に住む外国の方は増えていますが、日頃は通勤や買い物のために通行するだけで、地域住民と出会っても話をする機会はほとんどありません。このような状況が続くようでは、安心・安全で住みよい社会とはなりません。

そこで、3年前から小学校・PTA・地域づくり協議会からの依頼で、毎年開催されている「地域交流会」にコーポの外国籍の方たちが参加し、交流を図ることになりました。

これまでに、ミャンマーの国民スポーツ「チンロウ」とタイの国民スポーツ「セパタクロー」、ベトナムの国民スポーツ「ダーカウ」の紹介と体験会・それぞれの国の文化紹介を行ってきました。今回は、11名のコーポに住む外国の人たちが参加し、ベトナム・ミャンマー・タイのスポーツ体験と文化紹介等の交流を行いました。

交流会には、小学生と保護者、地域の色々な立場の人たちが参加しました。このような広く住民と触れ合う機会を持つことで、普段はできない外国の人と地域の小学生や保護者、住民との会話ができました。

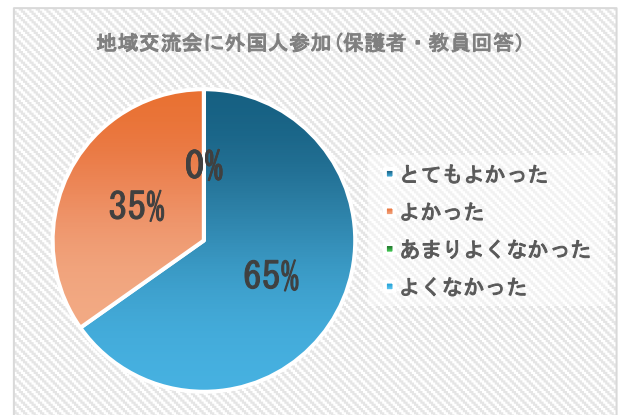
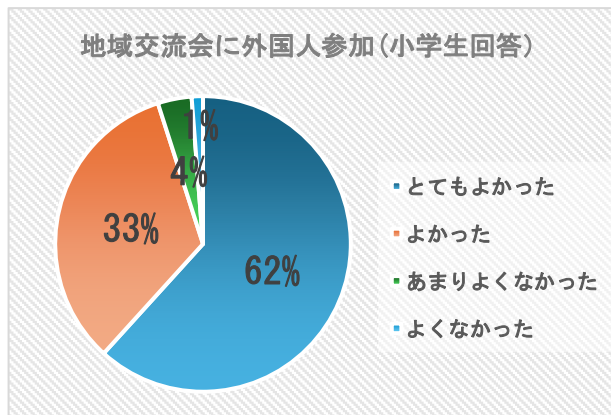
交流会後のアンケートから、参加者は、話はできなくてもスポーツでつながることができることを体験し、外国の文化や外国人への興味を持ち、親しみを養うことができたことがわかりました。保護者・教員からは、今回のような外国人との触れ合い交流は、外国の方への偏見をなくし、これからの多様化の時代を生きる子どもたちの視野を広め、将来設計に役立つと評価されました。

主催者や参加された地域の方から、次年度も交流会への参加してほしいと依頼があり、さらに、他の地域にも交流会を広げたいという話を聞きました。



【参加小学生・保護者・教職員アンケートより】

《地域交流会に外国人の方々が参加したことについて》



- ・地域に住む外国人の参加は小学生や保護者・教員に高く評価されています。

《地域交流会に外国人の方々が参加したことについての意見》

【小学生の代表的な意見】

- ・普段外国の方と話すことや、会うことがあまりないのでたくさんの外国人と触れ合えてよかったと思います。
- ・話せなくても、スポーツでつながることができたので良いと思う。一緒にスポーツをすることができて楽しかった。
- ・外国の文化やスポーツを知ることができました。来てくれて良かったです。

【保護者・教員の代表的な意見】

- ・子供たちが外国の人と触れ合うことで、異文化や国のこと、言語が学べるとてもいい機会だと思います。以前は外国は遠い国のイメージがありましたが、こんにちではSNSの発達により、より身近なものになっています。子供たちの将来設計の一つになると思います。来年度も是非続けていただけたらよいと思います。
- ・他文化、外国人と交流出来る機会について、他文化や外国人への興味や親しみを養う事、互いに緊張はする事と思いますが、言語や地域の壁を超えて心を通わせて一緒に時間を楽しく過ごす事が出来る事などを知り、世界の広さを知る一歩となった事と思います。私の勤務先には、技術移転交流を目的としたラオス人が実習生や社内転勤として活躍されています。職場以外にも地域の方と交流できる機会をつくってあげられるといいなあと感じました。
- ・外国の方とほとんど触れ合う機会のないこの辺りでは、外国の方は怖そうとか、関わりたくないといったような偏見がまだまだあると思うので、今回のような機会があることで、異文化理解が深まると思う。
- ・外国人の方々と触れ合う機会がほとんどないので、どんどんこのような機会を作っていただきたいです。外国語の授業などにも来ていただいて、いろいろな国の文化なども知れたら子供たちの視野も広がると思います。小さな学校では関わる人が少なく、考えやひらめきも閉鎖的になってしまうと感じます。今の時代、人種やジェンダーの多様化は当たり前、世界に目を向けて世界で活躍できる人材育成のためにも、子供のうちからどんどん外国人の方々と交流をしてほしいです。

④ 地域イベント参加 ―地域に出掛けて住民と共に地域の魅力を体験―

SSサロンの高齢者の誘いで、地域のイベント「三宅地区ふるさとウォーキング大会」を体験しました。かみなかコーポからは3名のSSサロンメンバーと13名の外国の人が参加しました。

大勢の知らない地域住民と共に地域を歩いて楽しむというこれまでにない経験でした。地域の名所をみんなでウォーキングし、お弁当を食べ、抽選会を楽しみました。

道中や帰りの電車内で外国の方と地域住民が談笑する姿に、今後、住民も外国の人も互いの「心の垣根」が低くなっていく手ごたえを感じました。



⑤ 外国人住民雇用企業からの評価 ―今後への期待と協力―

かみなかコーポに住む外国人は、ほとんどが地元の工業団地内の企業（工場）で働いています。数年来、コーポにおける「多文化共生活動」は、外国人雇用企業から高く評価されており、外国から日本に来て働いている人たちの生きがい・喜び・生活の潤いになっていて、彼らの勤労意欲向上に役立っています。

【企業に対してのアンケート結果】

（１）日本語教室に対しての評価

全企業が「とてもよい・よい」と評価。

（理由）

- ・地域との交流の機会により、日本での生活へ抵抗が軽減されると思います。
- ・かみなかコーポの住民とも人となり理解でき、不安が取り除かれます。
- ・自国籍ごとに固まらず、他の部屋、他国籍とも交流ができています。

（２）外国籍社員の感想や様子について

- ・日本語検定試験などに合格しているものがあり、勉強のモチベーションに繋がっているものと思われます。

（３）今後の日本語教室について

- ・日本語学習や検定試験に皆興味がありますので、是非継続してお願いいたします
- ・３月末より土日休日になり、仕事も軽減されてきますので、その時期から参加できる機会が増えると思います。
- ・平日でも夕方からの開催でも参加可能と思います。（金曜日などは定時が多い）
- ・日本語検定試験の練習などできれば、興味あると思われます。
- ・弊社は、勤務時間の関係で日曜日以外の参加が難しい状況ですが、全員が日本語教室への参加を希望しています。

（４）かみなかコーポ住宅の管理運営、取り組み等について

- ・弊社の外国人実習生の生活において多大なサポートを頂き大変感謝しております
一般の賃貸住宅ではこのような安定した生活は不可能と考えております。
- ・先ずはこのような取り組みに対して、御礼を申し上げます。
- ・ヒヤリング結果にも記載しましたが、現在の取り組みでは参加する側がある程度、日本語スキルが高いとの認識もあるようです。
- ・弊社の外国人社員でも、日本語スキルは一定ではありません。他社の他国の方も参加しているそうで、気を遣っていることもあるようです。
- ・とは言え、弊社としてはこの取り組みには大賛成で、運営側の皆さんには感謝しております。弊社からも社員に対し、参加を促すようにいたしますので、今後共よろしく願い致します。

生活の困りごと解消
若狭町職員による
「ゴミ分別集の説明会」



4 連携団体の取組

(1) 社会福祉法人 北日野こもればい会 《ピーぷるファン 就労支援事業所》

地域福祉（共生社会）推進活動への取組

理事長 田 辺 義 明

・カルチャー講座と呼んでいる療育事業について

事業者の職員のみならず地域の方々の力をお借りして、いろいろな療育事業ができないかとの思いで開所以来続けてきたものです。

最初は、職員の持っているスキルのみでスタートしたのですが、地域の方々の持っているスキルを利用しながら、多方面にわたる様々な療育へとつなげていきました。

これらの事業は、就労支援事業所なのに何故？と思われた方もいたのですが、「働ける人づくり」を目標に掲げた時から、感情の育成こそ「働ける人づくり」は必要不可欠、なくてはならない事業であると現在では確信しています。

毎週土曜日には必ず療育訓練のカルチャー講座を実施、スポーツ大会、スキルアップコンテスト、文化祭、レクレーション・リフレッシュデイ、県外研修日帰りや2泊研修など止まることなく2年前に始めた絵画教室は、芸術文化に造詣の深いベテラン教育者の導きで利用者の潜在能力が開花し、自己実現・感情の開発に大いに寄与してくれているところです。特に作業面での波及効果は大きく、作業に集中できずにトイレに引き籠る人や動作の緩慢な人が絵画教室で描いた作品を「きらりアート展」に出展した結果、芸術的資質が認められ、家族や友達に褒められてからは明るく快活に、就業に不可欠なコミュニケーション能力が備わり、作業動作も機敏となり、令和4年度の生産活動は年間売上目標額を1.8ヵ月早く（令和5年2月上旬）に達成したことで取引先様との信頼が一段と深まり、さらに売り上げを伸ばす勢いに変化していることは、地域社会との共存・共栄・共生社会活動を推進する法人も利用者も

利用者の家族も大変嬉しい成長です。その他の療育事業には、音楽&ダンス、食育調理、障がい者スポーツ（陸上・卓球・フライングディスク・ボウリング）自己主張1分スピーチ弁論大会、ミニ文化祭、ミュージカル・寸劇・合唱、接遇訓練、レクレーション療法等の講座です。

地区自治振興会主催：地域交流
新幹線開通のイベントに参加



たけふ菊人形福祉の店出展



絵画教室



・就労支援事業所にとって、地域の作業との連携は必要不可欠です。

ピーぷるファン開所時は、酒井化学工業(株)様、(株)若越チェア製作所様からの受託作業だけでしたが、知的障害者も機械作業に従事できるように会社様と機械化を進め、資金面と作業手順の指導を頂き、高工賃を輩出できる委託加工業者と位置付けられるまでになりました。

しかし、受託作業だけでは景気の動向に左右されると利用者工賃に対して不安が残ることから、リーマンショック以後の開所3年目より自主生産販売事業を手掛けました。

縫製作業では、認定エコマーク取得済みエコバッグ等を日本セルプを通じて全国へ販売する一方、地元では菊人形会場で福祉バザーを赤十字奉仕団様の協力と保護者・利用者も参加し、キャラメルポップコーンづくりやビニールおもちゃ作りを土日に福祉バザー会場で販売を展開する利用者の接遇態度が認められ、菊人形会場のトイレ清掃4か所とごみステーションのメンテナンス業務を越前市より受託するまでに育ちました。

お弁当事業は、健康美食を謳い、野菜の多い丁寧な手作りに心掛けると共に、営業範囲を広げたことで、県体操協会や地区自治振興会からの発注が多くなりました。

菓子製造事業では、健康ボタニカルクッキーを販売した直後に、東京の商品開発会社から共同による商品開発を持ち掛けられ、「乳酸菌入りおからクッキー」の全国展開に至っています。

以上の活動が越前市新庁舎建設時の喫茶コーナー業務委託公募時に、ピーぷるファンの提案が市当局に評価され喫茶コーナーを任せて頂いています。

みんなで・・・地域に貢献



たけふ菊人形会場：園内清掃



越前市役所から受託の喫茶コーナー

・共存・共生社会を目指して

開所以来少しずつ事業所の認知度も増し、民生委員児童委員様・福祉推進委員様をはじめ各団体様から共生社会活動の研修先として選択され、ご利用いただきました見学研修後には共に福祉の在り方等の検討会が持たれています。

また、特別支援学校の学生さんには、就労体験学習として年3回利用して頂いていますが機械化された作業の内容は軽易で綺麗なのが特徴と好評です。

更に、地域資源の核である地域自治振興会の事業に参加し、お弁当の発注を頂くなど係わりが多いのが特徴で、最近では北陸新幹線敦賀延伸記念事業に参加、地元を盛り上げました。

また令和6年度は、ピーぷるファン創立20周年を迎えますので大運動会を企画、地元の各種団体様から保護者に代わり利用者と一緒に走るボランティア70～80名の参加をお約束いただいたところです。

・人材の人財化育成に向け・・・福井県スキルアップコンテストに参加

福井県スキルアップコンテストはピーぷるファンが19年前に提唱した利用者各種療育事業のコンテストで、弁論・軽作業・調理・接遇の4部門で県内就労施設30事業所が参加、この日は、各事業者の職員・保護者・利用者が一堂に会して技能・技量を競い合い、他事業所の友達と仲良くなったり、支援学校の懐かしい同窓生に会ったりと交友の範囲を広げたりもしています。

最近では、ピーぷるファンを視察に来られた岩手県の関係者から、岩手県でもスキルアップコンテストを開催した旨の連絡を頂きました。この大会が広まっていくと嬉しい限りで職員も利用者もスキルアップできる特徴を備えた大会です。



スキルアップコンテスト：調理部門



障がい者スポーツ大会



福祉文化祭



忘年会

(2) つながるベース シーティングクリニック

●シーティングの定義

椅子・車椅子を利用して生活する人を対象に、座位に関する評価と対応(機器の選定、調整、マネジメントなどを含む)を行うことです。

●シーティングの目的：障害を感じる程度の軽減＝障害の発生予防

対象者等と共有した目標を達成できる適切な座位姿勢を実現することにより、二次的障害の予防、活動と参加の促進、心身機能・構造の改善を促すことです。



つながるクリニック、シーティング外来診療の効能・効果：家族で笑顔の療育・共に育つ

つながるクリニック、シーティング外来：紅谷院長と専門医療スタッフ4人で診療

つながるベース

シーティングクリニック

第3回 10月28日(土)
13:00-17:00(1枠30分)

0歳から100歳オーバーまで「姿勢」や「椅子」
についての悩みにお答えします！
実際に自分にぴったり合った椅子を作ることできます！



医師、看護師の診察
レントゲン
(前後弯・側弯の計測)
理学療法評価



姿勢の評価
困りごと解消に
向けた対応方法の
検討、、、など。



座位保持椅子職人に
よる姿勢の評価
椅子の作成に向けた
話し合い

つながるクリニック

所在地：福井県福井市二の宮2丁目25-8
日にち：2023年10月28日
時間：13時～17時（1枠30分 要予約）
お問合せ：0776-27-1550

合わせた椅子を
3Dで取り込んだり
もします！



つながるクリニックシーティング外来は、現在チームで模索しながら目指していることは整形外科/内科の目線、発達目線、筋肉や姿勢にも ICF やポジティブヘルスを意識して“暮らし”“人生”にスポットライトを当てながらチェック、環境やコミュニティへの意識も忘れず、今を評価するよりも「未来を創造する」イメージで取り組む、国内でも前例のない取り組みです。

障害児・者のみでなく、健常な方の姿勢での身体の痛みなどにも相談に乗り、必要な方には椅子というツールも作成が可能です。

資料提供：つながるクリニック

人の“エネルギー”に注目する「ポジティブヘルス」とは何か？

医療法人社団オレンジ 理事長 紅谷 浩之（べにや ひろゆき）

医師・紅谷浩之さんが語る「健康」の未来像

世界保健機関（WHO）は、「**健康とは**、病気でないとか、弱っていないということではなく、**肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態**にあること」を**定義しています**。



これは 1946 年に署名された世界保健機関憲章で定められたものですが、70 年以上前の主張が果たして現代の日本のような超高齢社会でも成り立つのでしょうか？今回インタビューした医師の紅谷浩之さんが着目するのが、2011 年にオランダの家庭医マフトルド・ヒューバーが唱えた、新しい健康の概念「ポジティブヘルス」です。健康を「社会的、身体的、感情的な問題に直面したときに適応し、本人主導で管理すること」と捉えるこの考え方に基づき、紅谷さんは在宅医療を専門に行う「オレンジホームケアクリニック」や、地域の幼小中一貫校との連携による病児保育を中心とした在宅医療拠点「ほっちのロッヂ」など、さまざまなプロジェクトに取り組んでいます。それでは、ポジティブヘルスは医療をどのように変えていくのでしょうか？ 紅谷さんの実践に迫っていきます。

2001 年、福井医科大学（現・福井大学）医学部卒業。福井県立病院、福井県内の診療所勤務を経て 11 年、在宅医療を専門に行う「オレンジホームケアクリニック」を開設。その後、医療的ケア児の活動拠点「オレンジキッズケアラボ」や、まちなかで住民の相談に応じる「みんなの保健室」、地域の幼小中一貫校との連携による病児保育を中心とした在宅医療拠点「ほっちのロッヂ」を立ち上げるなど、数多くのプロジェクトを展開している

ALS 患者の言葉から、募らせていった違和感

WHO の「健康」の定義のもとで行う医療行為に対して違和感を募らせる中で出会ったのが、マフトルド・ヒューバーが唱えた「**ポジティブヘルス**」の概念で、ポジティブヘルスという概念に出会う前、紅谷さんは在宅医療に携わる中で、ある筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者から「先生は不健康な生活をしていますね。」こんな言葉を投げかけられた日の夜 9 時、身体を動かせないその人に「僕はこれから残業です」と話したときに返ってきた言葉です。その患者はこう言いました。「僕は今からヘルパーさんがセットしてくれた 3 本立ての映画を徹夜して観る。好きなことをして夜を過ごす。先生は今から残業するなんて不健康ですね」。その指摘が妙にじっくり来たと振り返ります。「WHO の健康の定義でいえば、首から下が動かない方は不健康で、健康なのは僕のほうですが、それとは真逆の指摘を受け、素直に『その通りだな』と思ったんです。健康って何なのだろう？ そんな違和感が残りました。在宅医療では、そうした出来事が頻繁に起こります。末期がんで明日の命もわからない方が家族を集めて素敵な話をして一致団結させていたり、生まれつき大きな病気を持っている子どもたちがとてもエネルギーに過ごしていた

り重い病気を持っていたとしても、とても生き生きと過ごしている方もいれば、鬱々と暮らしている方もいる。元気に過ごせるかどうかの要因は、病気の種類や重さだけでなく、もっと複雑なものなのではないか——紅谷さんがそう気づくきっかけを与えてくれたのが、その ALS 患者の「不健康ですね」という言葉だったのです。「病気を持っているかどうかはどうでもよくて、持っていなくても鬱々としていれば病的だし、いっぱい持っていたとしても、うまくその身体を乗りこなしている状態は健康なのだ。WHO の呪縛の中で『何かが変だ』と感じていた僕にとって、とてもしっくり来る『健康』のコンセプトでした。」

どんな重病でも、「エネルギー」が戻れば介入終了 対話によって「本人主導の自己理解」を促す

ポジティブヘルスは「社会的・身体的・感情的な問題に直面したときに適応し、本人主導で管理することが『健康』という定義。ただし、「こうした状態になっていれば健康だ」という固定した定義があるわけではなく、人の持つ「エネルギー」を表すものだと紅谷さんは言います。

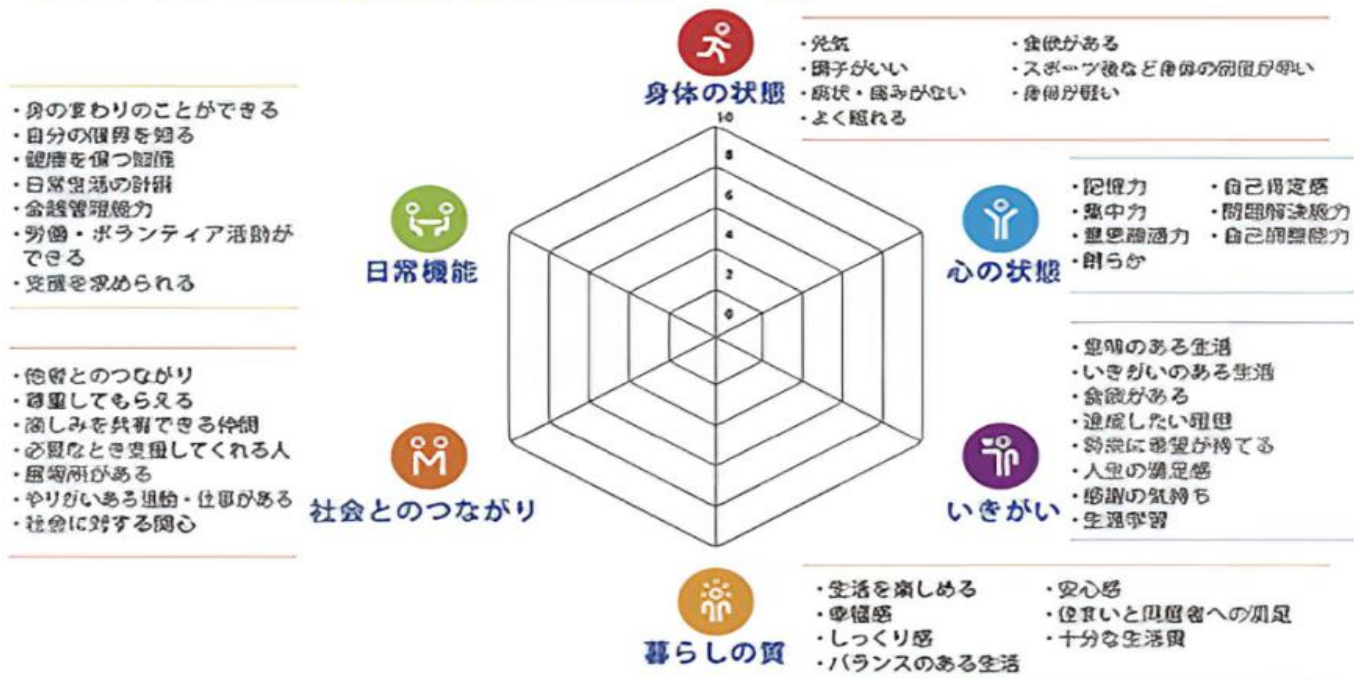
この概念が生まれたオランダでは、地域密着型の在宅ケア組織・ビュートゾルフが有名で、紅谷さんはビュートゾルフの研修に参加するためオランダに赴いたとき、日本との大きな違いを感じ、「患者さんの状態よりも、持っているエネルギーを見ている印象を受けた」といいます。

「ビュートゾルフの看護師さんに何度もこんなことを言われました。たとえ末期がんで今後も悪化する一方の人だったとしても、自分で朝起きて、シャワーを浴びて、服を選んで、朝ごはんを食べたいものを食べて、愛している人に『愛している』と伝えられるなら、もうその人は健康を取り戻しているので介入は終了です。末期がん、心臓病、神経難病……どんな病気であろうが、人としてのエネルギーを取り戻した状態に回復した時点で、介入は終了なのだと。これは『末期がん』という状態に対して提供されている、日本の訪問看護ではありえないです」

紅谷さんも初めは「介入をやめてしまったら、末期がんの人は困るじゃないか」と思った。しかし、その看護師が続けた言葉「生活を自分でコントロールし、乗りこなしていけるようになれば、困ったことがあっても自分から連絡したり助けを求めたりできるからこれで大丈夫だと耳にするうちに考えを改めました。オランダのケア文化の中には、特定の状態だけで評価するのではなく、そこに向かおうとするエネルギーを評価し、サポートする考え方が根深くあると感じた」。

そうした「エネルギー」の有無は、どうすれば判断できるのでしょうか？ その際に役立つのが、ヒューバーが考案した**クモの巣レーダーチャート**「身体の状態」「心の状態」「いきがい」「暮らしの質」「社会とのつながり」「日常機能」——6つの指標から、ポジティブヘルスを見渡します。紅谷さんも「毎日の診療で毎回使うわけではない」、視点を広げる必要がある場合や本人に気づいてもらえたほうが良い場合はこのチャートを使っている。例えば使わなくても、この6つの指標を意識しておくことが大事で普通は医者にかかっても考慮されるのは『身体の状態』だけで他にも色々なことがその人の生活や人生に渦巻いているのにわざわざ『身体の状態』だけを切り出されるが、医療は人間を健康で幸せにするための営みなのに、ここ50～100年で医学と

ポジティブヘルスを評価する「クモの巣チャート」



して学問化され、他の 5 項目が抜け落ちてしまったと思います。但し、このチャートの使い方は、あくまでも「本人次第」。点数が高いから良い、低いから悪いというわけではなく本人がそう感じているだけの話。この項目については評価したくない人がいたらそれを尊重する。このチャートは絶対的な基準ではなく「貴方が気になるところは？」「貴方が変えたいと思うところは？」「どうしたら変わりますか？」「今できそうですか？」その人が医師と本人主導の自己理解を促すための対話にあたり自分自身を多面的に見るためのツールが「クモの巣」で医師が専門職の目線で物差しを当ててるのではなく、本人が考える『健康』や『幸せ』を信じての物差しの中で納得いく考えに至れるよう対話する。頭痛が酷く、精密検査の有無を診てほしくて来てくれた方がいたとします。待ち時間にクモの巣を書いていくと、『身体の状態』は低い点数だけれど『日常機能』『社会とのつながり』は高いと分かれば頭痛の原因をはっきりさせたいのではなく、友人との遊びの予定を頭痛に邪魔されなくなかったのだと気づけば、少しバランスを取り戻せる。こうしたポジティブヘルスの概念を大切に紅谷さんが理事長の医療法人社団オレンジは 2011 年 2 月に立ち上げた在宅医療専門の「オレンジホームケアクリニック」を皮切りに、医療的ケア児の活動拠点「オレンジキッズケアラボ」、まちなかで住民の相談に応じる「みんなの保健室」、地域の幼小中一貫校と連携の病児保育を中心とした在宅医療拠点「ほっちのロッジ」など様々なプロジェクトに取り組んでいる。オレンジでは立ち上げ当初から、「Be Happy!」を大事に、一般に医療者は「治す」「楽にする」とは言っても「幸せにする」とは言いませんが在宅医療では病気は悪くなるし最後は死んでしまうが「生きていて良かった」「良い人生だった」と言ってもらうことがゴール。ポジティブヘルスの概念に出会う前からその価値観を「Be Happy!」という言葉で「Be Happy!」の実現に紅谷さんが重視したのが「生活軸」と「時間軸」をとことん広げて考えることです。多くの病院では病気にスポットライトを当てるため患者さんの生活らしい要素は排除、その人の趣味は何か、どんな家族と過ごしているのか、どんな洋服が好きなのか...それらに関係

なく、誰もを裸にして病人用の服を着せ診察する。生活感をゼロにして身体だけに特化する。更に、その人がどんな人生を送ってきたのか、将来どんな夢があるかも無視して今その人がどんな症状なのかだけにスポットを当てる。私たちは、そうして狭められた『生活軸』と『時間軸』をしっかりと聞き出すことを大切にしながら、一人ひとりとコミュニケーションを取り病気の話だけでその人が語れるわけではないことを自覚しその人のやりたいことや好きなこと、これまでの人生やこれからの未来でしたいことに耳を傾けて尊重する。その上で病気や医療面の心配がその人の未来を阻んでいるのであれば初めてケアをする。例えば、患者が「夫婦で最初の温泉旅行に行った場所に、最後にもう一回行きたい。でも、今は痛みがあって移動も難しいから無理だろうな」と思っているのであれば、スタッフがサポートして温泉旅行を実現してあげる。こうして「一人の人間」としての関わり合いを重視するスタンスは、小児科から介護、緩和ケアまでを包摂する「ほっちのロッヂ」にも表れており、ほっちのロッヂは音楽のイベントで人工呼吸器をつける 3 歳の子も重度の認知症がある 80 歳のおばあちゃんも横に並んで、一緒に「いい音楽ね」と好きなものをわかりあえる。症状や状態、年齢といった側面ではなく、好きなことが一緒だという側面では出会える場所にしている。最終的には、**ほっちのロッヂ**を『**ケアの文化拠点**』にして、転びそうな友達に手を差し伸べたり、困っている友達に『何か手伝うことはある?』と聞いたり...ケアはもともと限られた専門職がするものではなく誰もが自然に提供しあえる“文化”だったと思い、症状や状態ではなく、好きなことをする仲間として接していれば、そうしたケアの文化が自然と取り戻せると前編記事では、紅谷さんが大切にするポジティブヘルスの真意とそれに基づいて行ってきた実践を綴り、後編記事では「治療」だけに留まらないポジティブヘルスの可能性と紅谷さんが考える「脱・医療」としての医療の未来「**ケアを専門職の仕事ではなく、文化にしてい**く」に、迫ります。



ほっちのロッヂ（軽井沢）：**ケアを** 専門職の仕事ではなく **文化に**...

(3) 移住農家



埼玉県から移住して15年
家族で果樹園を行っています。

小林果樹園

〒919-1462 福井県三方上中郡若狭町田井 65-8

TEL 080-1194-9403

Mail hinomaru.nougyou@gmail.com

H P <https://www.hinomarunougyou.com>

経歴

平成 20 年 かみなか農楽舎にて 2 年間の田んぼを中心とした農業研修を受ける。

平成 22 年 里親梅農家にて1年間梅の研修を受ける。

平成 23 年 梅農家として独立する。

令和 3 年 レモン栽培を始める。レモン(璃の香)40 本を梅の耕作放棄地に植える。
現在、120 本栽培している。

う め



栽培品種

□剣先

早生の品種で、実の先端部分がやや尖っていることから名前が付けました。梅酒や梅シロップ等のジュースに適しています。

□紅映

その名の通り、「紅映」は実が熟してくると日当たりの良い部分が紅色を帯びます。梅酒、梅干しに適しており、特に梅干しは肉厚でぽったりとした食感が特徴です。

□新平太夫

晩生の品種で、梅干しに適しています。福井では黄金の梅として販売されており、完熟時の香りは芳醇で、加工時は鮮やかな色に仕上がります。

□福太夫

平成 17 年に品種登録され、「新平太夫」と「織姫」をかけ合わせた福井梅の中では新しい品種です。果実はやや小ぶりで、丸い形をしています。梅酒、梅干し両方に適しており、熟すと綺麗な黄色味がかった色になります。



梅栽培について

当初は、一部の園地で無農薬栽培を行っていましたが、年数の経過とともに木に病気が蔓延していき、収量・品質ともに落ちていきました。この先園地を長い年月維持していくにあたり、必要最低減の肥料・農薬を使った栽培をしていく結論に至りました。子どもから高齢者の方まで、安心して召し上がってもらえる畑づくりを心掛けて日々栽培を行っています。

レモン



レモン(璃の香)

リスボンレモンとヒュウガナツの花粉を交雑した品種です。「璃」は宝あるいはガラス、水晶という意味で「璃の香」はこの品種のもつ透明感やすっきり感のある香りを表しています。果実は 200g程度と従来のレモン品種に比べて大きく、種も少なく、味はとにかく爽やか！果皮が薄くまろやかな酸味で、そのままでも食べられます。木の樹勢も強く、病気、寒さにも強いレモンです。これから、レモンの王様になるであろう品種です。



そもそもなぜ、農業の世界に来たかという養老孟司氏の「バカの壁」という本を読み、若者は農業でもやりなさいという様な言葉に触発され、軽い気持ちで農業をすることになりました。平成23年春、福井県若狭町にある約20世帯の山奥のどんつきにある梅ヶ原集落にてウメ農家として独立しました。新規就農当初は約40a ほどの農地を借り梅農家としてスタートしました。時が流れるにつれ集落の人々も高齢化し、畑をやってくれないかという相談が増え、現在約 2.7ha の梅畑を管理するまでになりました。この集落に来た当初。住んでいた空き家の下の家の人々が、「家に明かりがついて嬉しい」と言っていた事を思い出します。そこに存在しているだけでありがたいがられる職業も珍しいものだなと思ったものです。私はその後、家族もでき賑やかになりましたが、あの時から比べると皆年を取り、集落の人数も少なくなりました。時の流れには逆らえません「なるようになる」をモットーに風前の灯な集落で家族楽しく過ごしています。



農家造りの移住先住居



小林様ご夫妻

商品案内



ぜいたく梅干し

青梅 (6月1～25日頃まで)

品種・サイズ・数量 (kg) ご指定ください。

○剣先については、6 月前半で終了します。

○作柄によって、品種・サイズのご指定が希望に添えない場合もあります。

L=700 円、2L=800 円、3L=900 円

* 令和 5 年度価格

梅干し (通年販売)

サイズ・数量 (kg)

ご指定ください。

L, 2L, 3L = 1 kg / 2500 円

レモン (10 月～1 月)

時価ですので、お問い合わせください。

(4) 地域福祉共生活動 共同生活援助施設整備計画について



①障がい者グループホーム等の整備計画について

特定非営利活動法人ねこやなぎ倶楽部は、一般社団法人健康生きがいサポート互助会が管理運営するかみなかコーポ敷地内の空いているスペースを活用して「医療・介護・福祉連携住宅団地構想」におけるグループホーム等の整備計画を進めています。

趣 旨

親の高齢化や兄弟姉妹の結婚等による世帯の変化等で、継続した関わりが難しくなる家庭が増えているため、両親が元気なうちに地域の人たちの協力を得ながら、親亡き後も地域の中で安心して暮らせるような体制を整えていきたいと思い、フレイル予防等にも取り組みながら、高齢化する家族の負担を少しでも軽減できるようにしたいと考えます。



これまでの経過

嶺南地域における支援の必要な方の「就労の場」は少しずつ増えていますが、安心して安全に暮らせる「生活の場」は、まだまだ少ない状況となっています。

法人設立時、グループホームを設置するために空き家になっていた家屋で準備を進めましたが、設置予定場所が災害発生区域であり、その場所に要援護者を住まわせるのは、大変危険であるとの意向で進展が見込めず中止しました。また、集合住宅の部屋を借り受けての準備も進めていましたが、消防法等の関係法令や設備基準等が厳しく、既存設備でのグループホーム設置には、改修工事が大変困難であることから中止しました。

その後、相談支援事業を行いながら、関係機関等と話し合っ、若狭町に10名のグループホームを開設し、美浜町に4名のグループホームと1名のショートステイを開設しました。

今後の計画

相談支援事業を行う中で、まだまだ親亡き後の不安からグループホームへの入居希望が増えています。また、近隣に重度障がいの方のグループホームがないため、早急に整備してほしいとの家族会等からの要望も多い。

若狭町や小浜市、美浜町での空き家ツアーへの参加や空き家バンク等で物件を探していますが、バリアフリー改修やスプリンクラー等消防設備の設置が困難な事も影響が大きい。

これらを踏まえ、いろいろ模索していた所、かみなかコーポ3号棟や駐車場等を活用できないかとの話があり、数名の親の会で話し合いながら、検討を進めてきました。そして、近未来『ダイバーシティ共生社会』創造プロジェクト会議でグループホーム整備計画の推進委員会を立ち上げ、日中支援型グループホームを早期に開設できるよう進めています。

②地域住民説明会

障がい者と共に暮らす家族からは「８０５０問題」に対応するため、親亡き後の暮らしの場を早急に整備して欲しいとの要望が年々高まっています。（８０５０問題とは、高齢の親が子の援助をしている障がい者家族が生活困難になる問題）



そこで、駅や病院、商業施設があり、高齢者が暮らしやすい地域にあるかみなかコーポの敷地内に、共同生活援助施設（障がい者グループホーム）の建設を計画し、若狭町関係課、かみなかコーポと近隣区の自治会・住民、近隣地区在住町議会議員等と情報を共有し連携して整備計画を進めています。

隣接地区総会での説明

グループホーム整備計画について、かみなかコーポが属する三宅地区内に説明資料を回覧し、広く意見を求め理解を得ると同時に、かみなかコーポ及び隣接する井ノ口区・天徳寺区・市場区では総会でグループホーム建設について説明を行い、意見を聞き、理解と協力をいただけてきました。

地域の意見・理解・協力について

地域住民は、グループホーム建設に理解を示しています。中でも、建設場所のかみなかコーポ自治会からは、理解を得ました。工事にあたってのいくつかの要望事項や注意事項が出され、工事承諾、協力の申し出をいただきました。

町議会議員や地域づくり協議会三役からは、この施設建設を機会として子育て支援や雇用創出、地域発展につながる等の建設を歓迎し推進する意見が出ました。



【町議会議員、地域づくり協議会等との面談より】

F町議会議員より

- ・私も障がい者福祉施設に勤務している。
- ・グループホーム建設に賛成である。
- ・住民の意見を聞くこと。
- ・障がい者の思わぬ行動、飛び出し等への対応についての確認。
- ・夜間宿直の確認。
- ・クリーンねっと若狭との相談連携をするように。
- ・かみなかコーポの一室で子育て支援施設を整備するとよい。

T町議会議員より

- ・資料に記載の市町によってグループホームの数が違うことについて確認

- ・事業収支見込みと給付金について確認
- ・いいことを行おうとしている。賛成である。応援する。
- ・この地域は、病院や施設もある。住民の理解も得やすい土壌がある。
- ・地域発展の一つになる施設であると思う。
- ・子育て環境の整備になる施設である。
- ・地域にあってほしいという世帯もあると思う。
- ・兄弟姉妹に障害児がいる世帯をこの地域に引き寄せることができる事業である。
- ・子育てを支える環境整備ができればいい。

地域づくり協議会三役より

- ・グループホーム建設に賛成である。
- ・ブドウ園等の整備は住民との触れ合いができる良いスペースとなる。
- ・かみなかコーポ自治会への説明は必要であり、近隣の井ノ口区や天徳寺区への説明を行い、必要性を共有し、共通理解を図ること。
- ・Q) 他の地域で運営しているグループホームは地域の理解はどうか。
→美浜と熊川で運営しているが、両地区ともよく理解されている。
- ・父母が亡くなった後、兄弟がいない家庭の問題等、身近な障がい者の 8050 問題を共有するとよいと思う
- ・グループホームではどんな人が入所し、どんな生活をするのか具体的に、現在運営している 2 か所の事例をモデルとして出すと地域住民にわかりやすいと思う。

【各自治会総会から】

懸念されることについて

- Q) 各集落に説明して回っているのは、何か懸念される事態があるという話なのか？

→ 特に問題が出ているという話ではないが、全国的には反対運動が起こる地域もあり、地域住民の理解を十分に得て欲しいという町の意向もある。

かみなかコーポの駐車場は町有地であるため、丁寧に説明させて頂いている。

- Q) 事業所を開設した際、近隣住民に対して懸念される事はあるか？

→ そこで生活をするので、出かけて交流する場面が増えると思う。

重度の方で奇声を発する人もいるので突然の出来事に驚く場面等が想定される。

施設で働く人の雇用について

- Q) 新聞記事にもあるが、施設運営は人材不足で、これから継続していけるのか？

→ 希望者があれば地元の方々に働いて貰えると緊急時の対応等でも助かる事がある。

短時間(1~2 時間)でも働けると言う近隣の方があれば可能な範囲で雇用させて頂く。

いろんな方に関わって貰えると良いので、情報を頂けるとありがたい。



Q) 福祉事業所が出来るのは良い事だが、雇用は？ 優先的雇用があるのか？

→ 近所の方に働いて貰えると緊急時の対応が迅速に出来るので是非お願いしたい。

工事中に関する要望について

Q) 道路や駐車場が泥水等で汚れると思うので、常に水を撒く等の対応を徹底して欲しい。

工事車両や重機等の出入りの際は危険なので、出入口付近に必ず交通整理員を配置して貰いたい。

→ 冬期間に桜の木の伐採や水源施設の解体工事が進められるよう調整したいと思う。埃が舞う解体等は冬期間に工事を行い、道路や駐車場の泥水汚染は、水洗い等を徹底して貰うよう業者をお願いして、住民の皆さんに迷惑のかからないようにする。

Q) 利用者等が出入りする際に危険があると思われるので、駐車場内での歩行通路の確保や車道と歩道の明示、職員の同行等も検討して、危険が無いようにして欲しい。

→ 必要に応じて図面等で示し、十分に配慮していきたいと思う。

【地区回覧文書の一部】

地域の皆様へ

共同生活援助施設(障がい者グループホーム)とは



グループホーム外観(想定)

・「グループホーム」と「交流スペース」の2棟を建設します。

・「グループホーム」は、障がいのある人が共同で生活されるお家です。私たちが建設するグループホームは、主に重度の障がい者(身体障がいを併せ持つものも含む)10名(ショートスティ2名含む)の方が暮らすことができます。

・支援スタッフが常時(昼も夜も)生活のサポートをさせていただきます。

・「交流スペース」は、グループホームに隣接して建設します。生活介護(12名)と児童放課後デイ(8名)のための広い部屋や設備がある建物です。

重度の障がい者とは

・食事や入浴、トイレ等の日常生活で常時介助を必要としている方です。

・簡単な会話はできますが、言葉や金銭についての理解が難しく、一人で行動することは困難です。このため、常にご家族や支援員などの付き添いや補助が必要です。



かみなかコーポ S S サロン：周辺マップ



**賃貸住宅
かみなか&瓜生コーポ**



一般社団法人 健康生きがいサポート互助会
ゆかなな暮らしのコミュニティを提供します

ホーム 住まいと地域 暮らしの楽しみ方 お役立ち コミュニティ 施設・設備 施設・設備



2023 年度社会福祉振興助成事業実践報告書

2024 年 3 月発行

誰もが 健康で 元気で 働き 暮らす 共生社会づくり

＊ 共生社会を創る高齢者・障害者・外国人等のダイバーシティ活動 ＊

集合住宅&サテライト ダイバーシティサロンの 取組

一般社団法人 健康生きがいサポート互助会



賃貸住宅「かみなかコーポ&瓜生コーポ」は、駅・学校・病院・商店・工業団地などに近く、生活に便利で、働きやすく、自然豊かで歴史ある地域にあります。私たちは、子育て世代や働き盛りの世代、高齢者、一人暮らし、外国籍の人など、全ての人に「安心な住まいと潤いあるゆたかな暮らし」を提供します。丈夫な鉄筋コンクリート造りの建物の内装は、住みやすいようにリニューアルしています。

一般社団法人 健康生きがいサポート互助会

【かみなかコーポ S S サロン室】

〒919-1542

福井県三方上中郡若狭町井ノ口 15-24-5

TEL (0770) 62-2041 FAX (0770) 62-2043

【本部・相談室・春江活動センター】

〒919-0426

福井県坂井市春江町いちい野中央 506-3

TEL (0776) 58-5678 FAX (0776) 58-5688

ホームページ <http://kisg.main.jp/>

E-MAIL kisg-fukui@c-net.or.jp